

2025年7月

26卒理系院生1,519名 就活動向調査



サマリー①

応募社数等に変化はなく、学生の活動量は昨年同様。引き続きエントリー先は絞り込む傾向。昨年に比べ、内定獲得時期・入社先決定時期は前倒し。選考や意思決定の早期化が進んでいる。

エントリー数
6社 (中央値)

- ・ 10社未満のエントリーが全体の75.3% を占める。

インターン応募社数
9社 (中央値)

- ・ 96.7%の学生がインターンに応募。
- ・ そのうち、91.4%が夏インターンに応募。

内定獲得数
2社 (中央値)

- ・ 22.5%の学生が修士1年12月までに内定を獲得。(前年比6.3pt増)
- ・ 73.9%の学生が修士1年3月までに内定を獲得。(前年比3.4pt増)
- ・ 64.6%の学生が修士1年3月までに入社先を決定する。(前年比2.8pt増)

入社先は、推薦等の紹介でなく自分で調べて接触。入社先インターンへの参加率も上昇。

- ・ 入社先企業へは、**47.8%**の学生が**自主応募**。学校・研究室等の推薦経由での応募は11.3%で前年比**3.4pt減**。
- ・ 入社先企業のインターンシップへの参加率は**約60%**（前年比**4.4pt増**）。
- ・ 前年に比べ「夏インターン」「長期インターン」の参加率が上昇。
秋冬インターンにも45%の学生が参加。通年でインターンへの参加率は高まっている。

内定承諾にあたって、職種や勤務地の確約が重要に。事業の成長性・魅力も考慮される傾向あり。

- ・ **74%**の学生が、職種または勤務地（もしくは両方）確約で内定を獲得している。
- ・ 職種・勤務地（もしくは両方）の**確約がない場合、68.4%**の学生が**内定承諾に悩む**傾向。
- ・ 入社先の決め手TOP3は、前年同様「環境・待遇」「自分の専門性を活かせるか」「社風・働く人の雰囲気」ではあるが、「製品・サービスの魅力」「事業の成長性」の重要度が上昇した。

（参考）「就活早期化」に関わる企業側の採用データとの比較について

企業の採用活動の“早期化”も昨年以上に拍車がかかっている状況。
12月までに内定を出す企業は今後も増加し、
学生が入社先を決定する時期も、徐々に前倒しされていく見込み。

▼企業側調査データ（※参照『349社に調査 理系新卒採用 企業動向レポート【業種別分析つき】』）

- 修士1年9月～12月に内定出しを行なった企業は、25卒から26卒で25%から**39%に増加**。
- 27卒では**44%**の企業が「9月～12月に内定出しを行う見込」と回答。早期化に対応する企業はさらに増える見通し。

▼学生側調査データ（※参照 本資料・『2024年11月 26卒理系院生936名 就活動向レポート』）

- 修士1年11月時点で**70%以上の学生がすでに1社以上にエントリー済み**。（前年比約12pt増）
- 修士1年11月時点で**45.5%の学生が本選考の面接を経験済み**。（前年比約20pt増）
- 修士1年12月までに内定獲得した学生は16%から**22%に増加**。上記企業側の動きと連動し、早期内定獲得は増えている。
- **73.9%**の学生が**修士1年3月までに内定を獲得**。（前年比3.4pt増）
- **64.6%**の学生が**修士1年3月までに入社先を決定**する。（前年比2.8pt増）

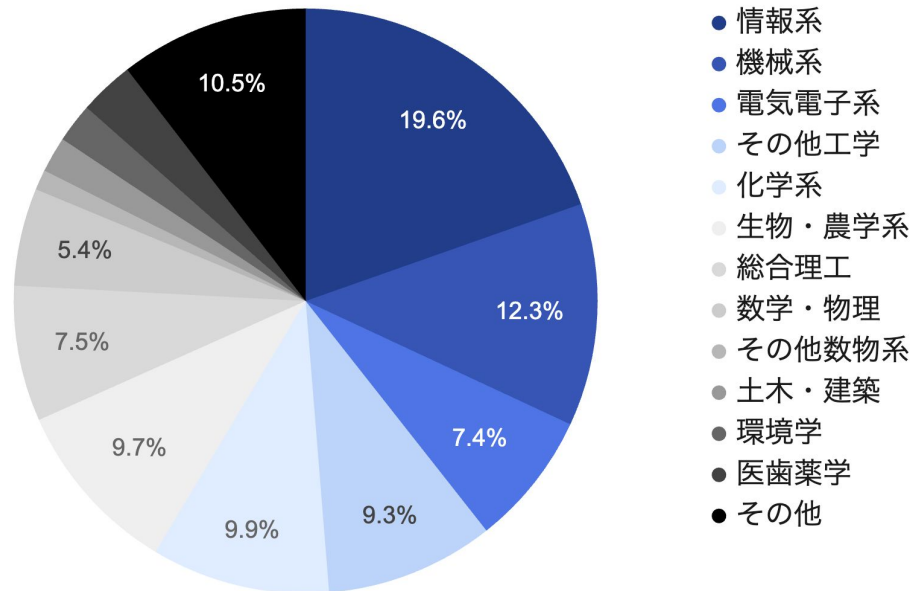
- 00. 調査対象
- 01. 理系院生の就活動向
- 02. 内定状況と入社先決定時期
- 03. 内定承諾した企業との接触
- 04. 内定承諾に影響する要素

00

アンケート集計

■ 本アンケートについてー回答学生データー

実施期間	2025年7月8日～2025年7月31日
調査対象	学年：26卒理系院生（修士2年生） 対象：LabBase就職ユーザー1,519名 （専攻不問）
回答者専攻	右記グラフ参照



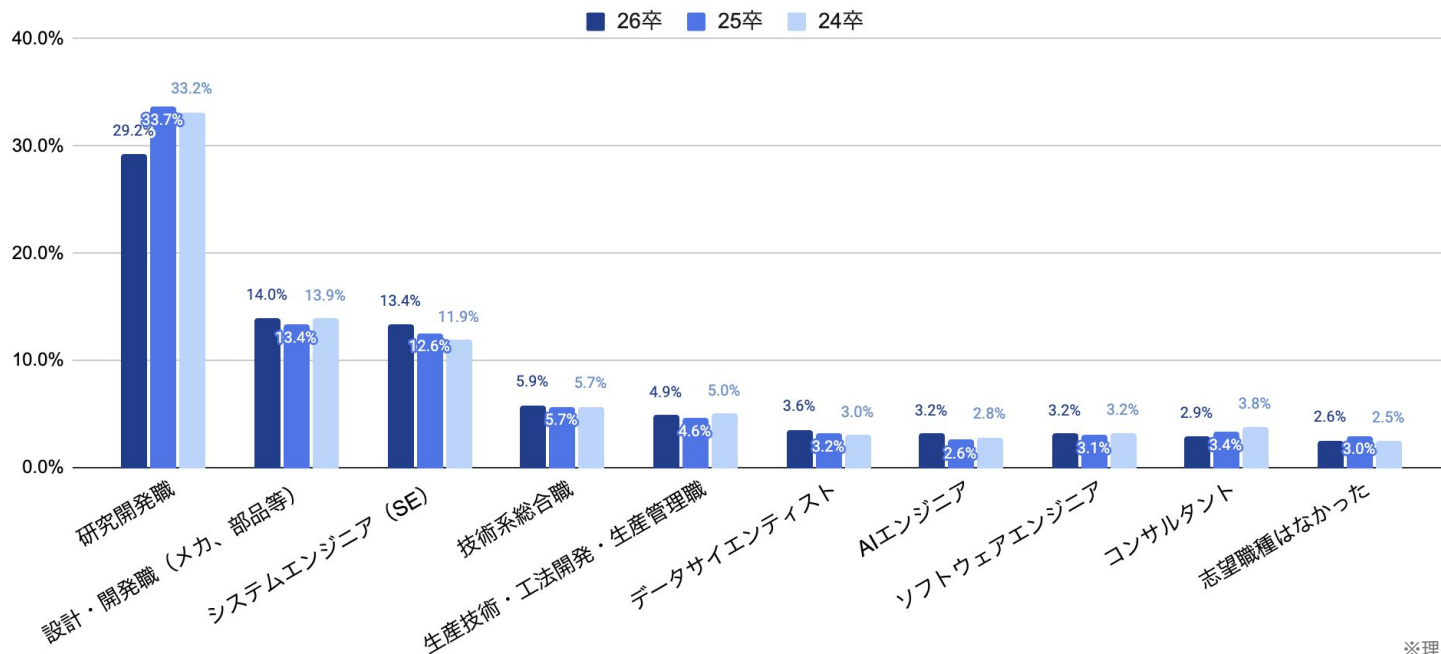
01.

理系院生の就活動向

- 第一志望の職種は？
- 就活を始めた時期は？
- エントリー社数は？
- インターンシップの応募社数は？
- どのように新しい企業を知るか

昨年調査と変わらぬ結果に。 研究開発職、設計・開発職、システムエンジニアが上位を占める。

志望職種についてお聞きます。本選考において、第一志望の職種をお選びください。（単一回答）



※理系職の回答結果のみ抜粋

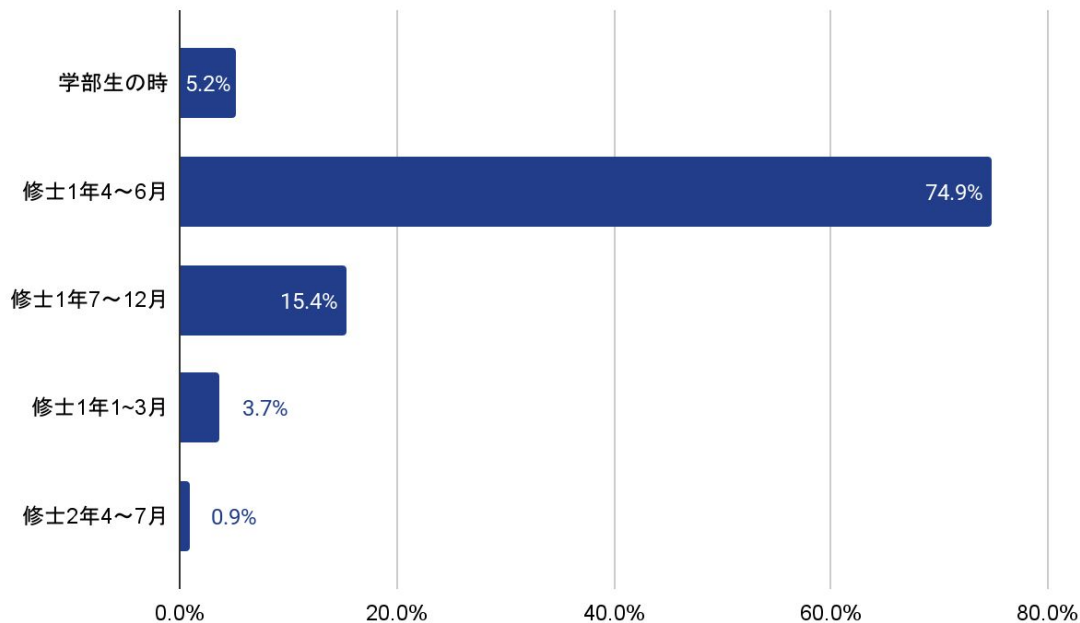
参照：2023年7月 24卒理系院生1,977名 就活動向調査（n= 1,895）

参照：2024年7月 25卒理系院生1,979名 就活動向調査（n= 1,788）

参照：2025年7月 26卒理系院生1,519名 就活動向調査（n= 1,519）

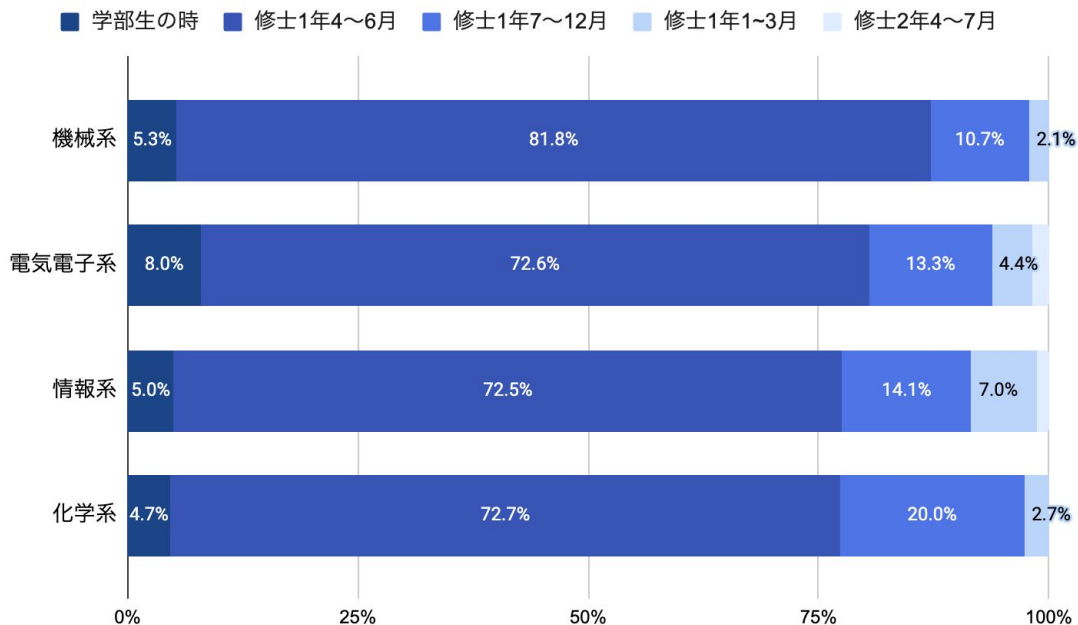
80.1%が修士1年4月～6月までに就活を開始

就活を始めた時期はいつですか。(単一回答)



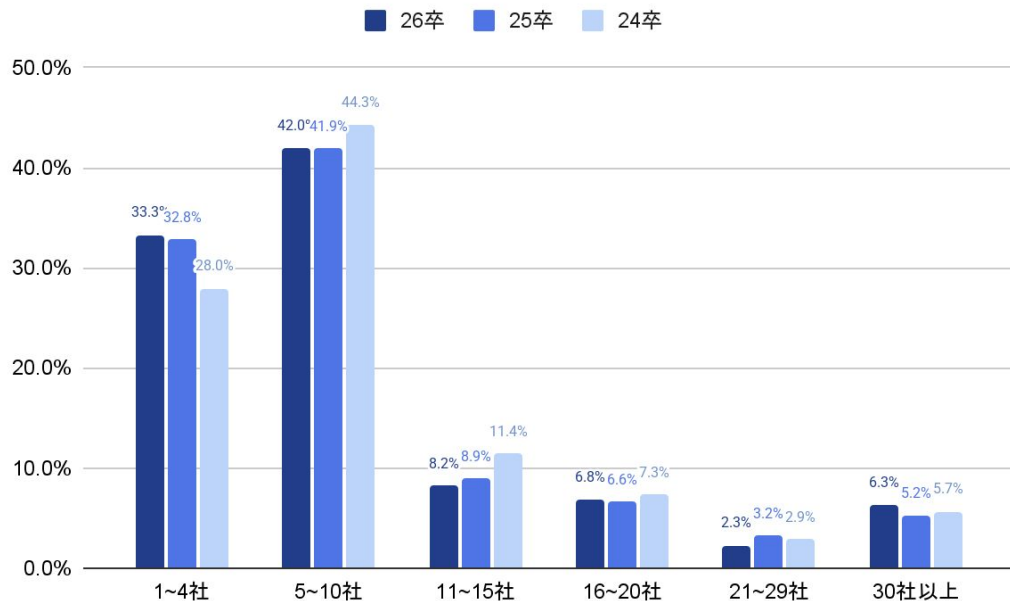
どの専攻も約8割の院生が、修士1年6月までに就活を開始

就活を始めた時期はいつですか。(単一回答)



エントリー数は、昨年と変わらず6社(中央値)。 10社未満が75.3%と、引き続き絞り込みの傾向。

就活全体でエントリー（本選考への応募）をした社数を教えてください。（単一回答）



※エントリー数0社の回答は除く

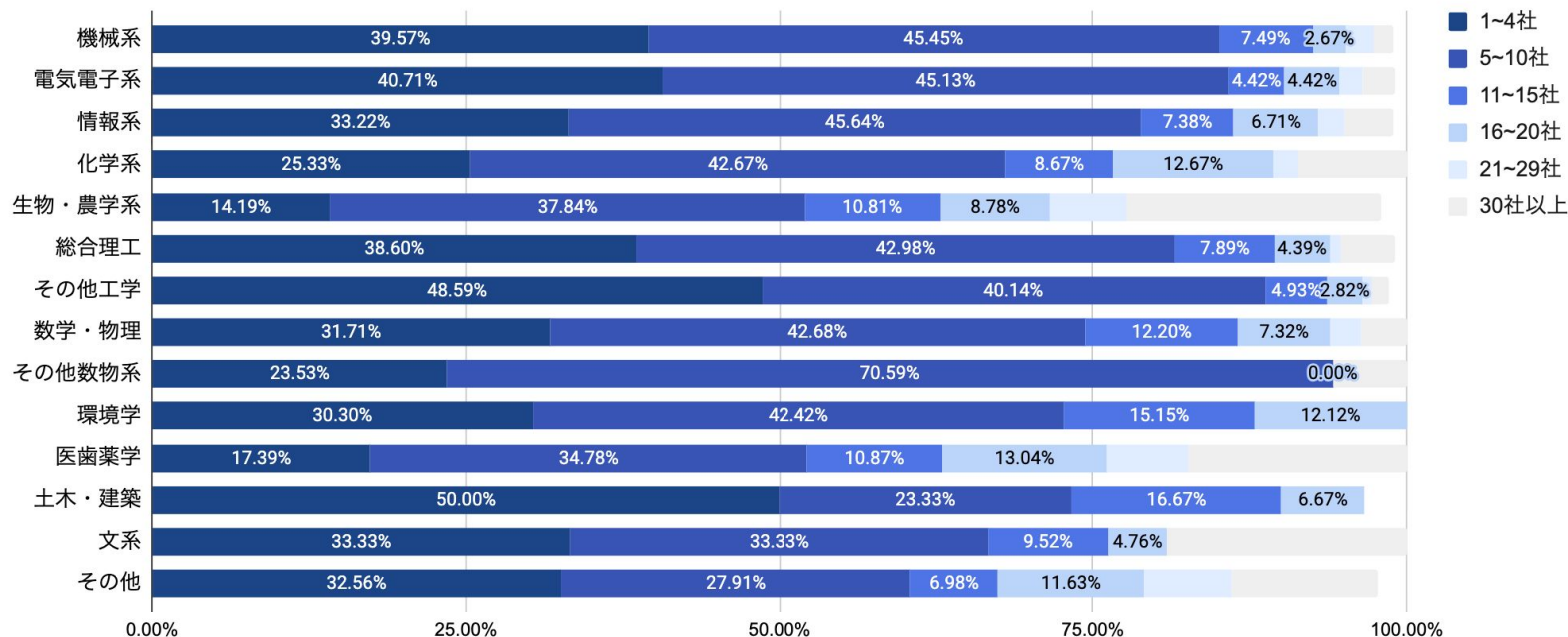
参照：2023年7月 24卒理系院生1,977名 就活動向調査 (n= 1,895)

参照：2024年7月 25卒理系院生1,979名 就活動向調査 (n= 1,788)

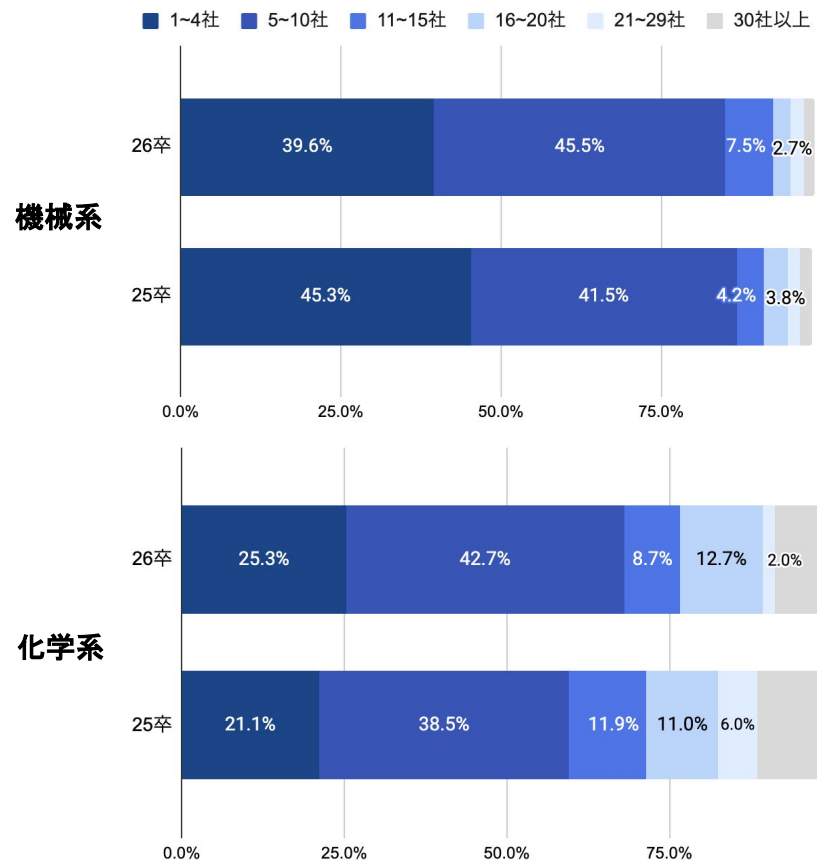
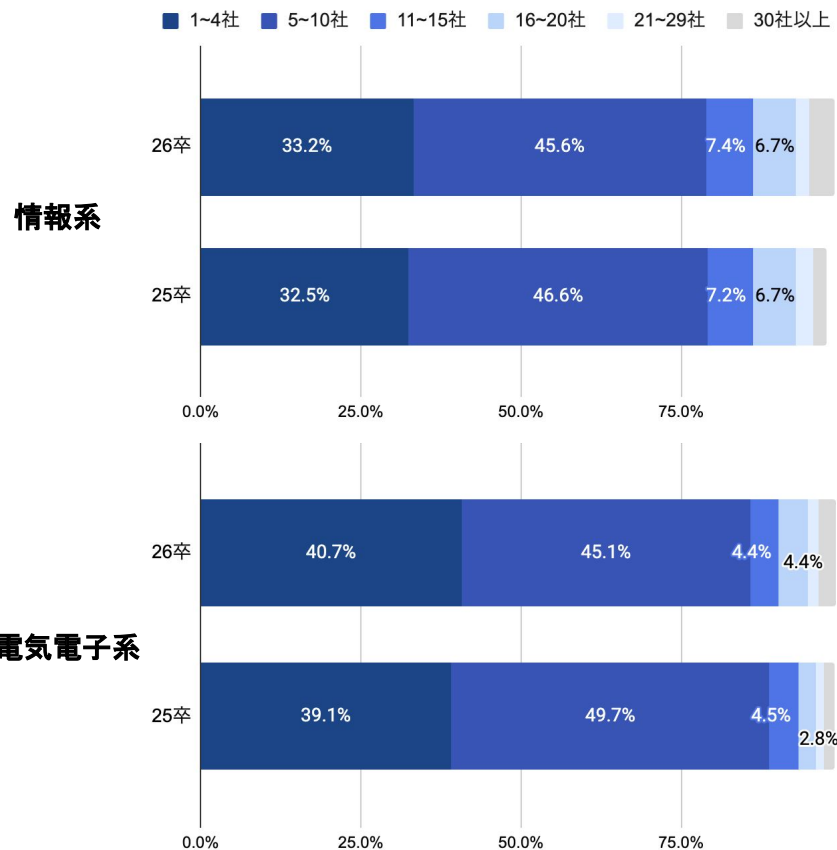
参照：2025年7月 26卒理系院生1,519名 就活動向調査 (n= 1,519)

特に機械/電気電子/理工系・工学系で1~4社エントリーの割合が高まる。

就活全体でエントリー（本選考への応募）をした社数を教えてください。（単一回答）

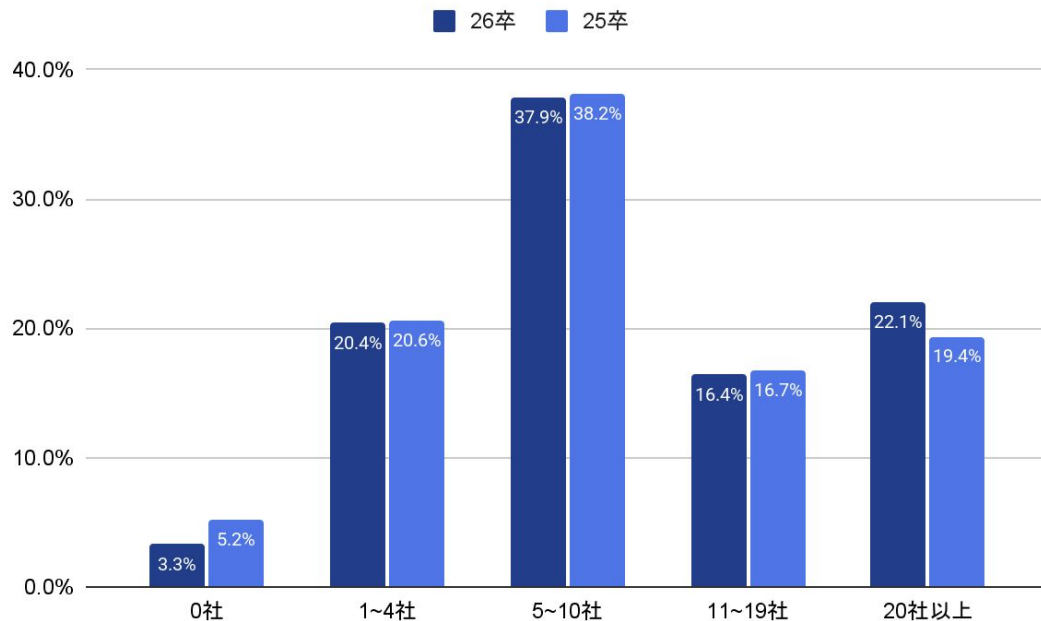


【専攻別】就活全体でのエントリー社数昨年比（情報系・機械系・電子電気系・化学系）



96.7%の学生がインターンに応募。 応募社数は昨年と変わらず 9社(中央値)。

就活における全期間で、可否問わずインターンシップ（1dayや説明会も含む）に応募した社数を教えてください。（単一回答）

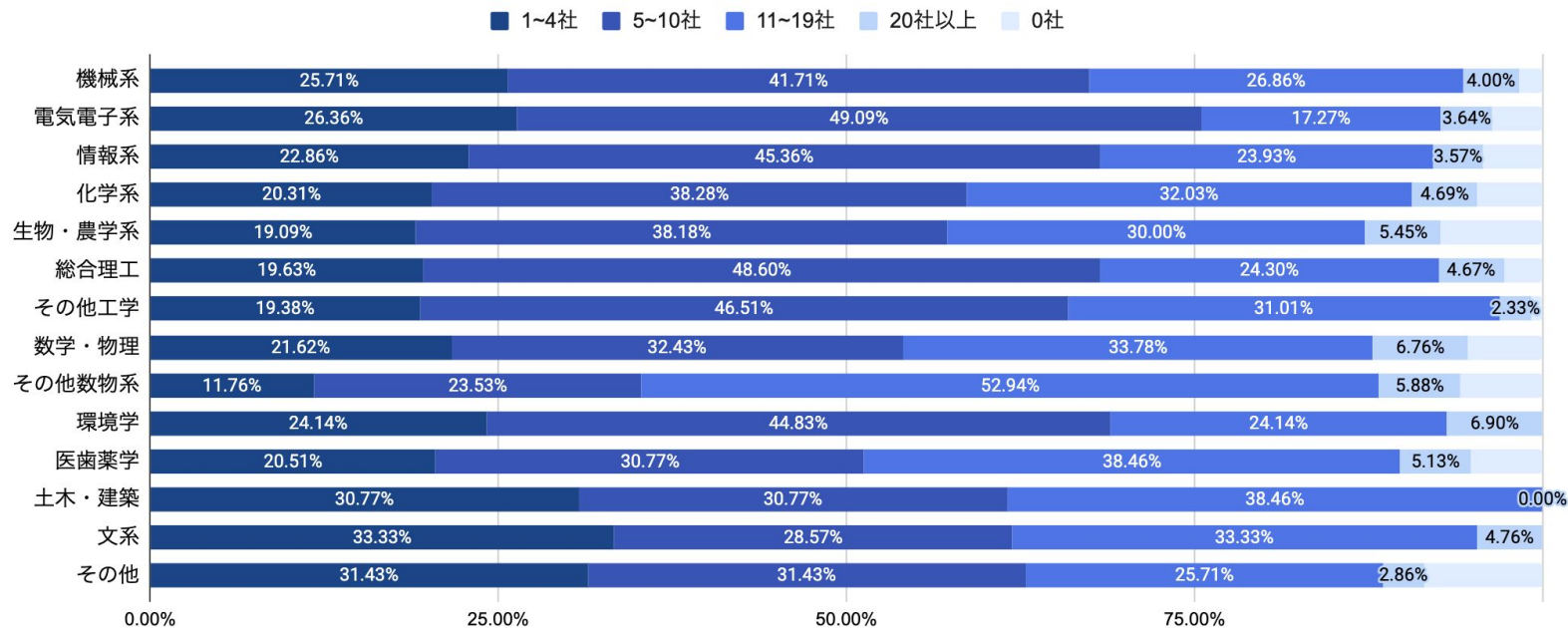


参照：2024年7月 25卒理系院生1,979名 就活動向調査（n= 1,788）

参照：2025年7月 26卒理系院生1,519名 就活動向調査（n= 1,519）

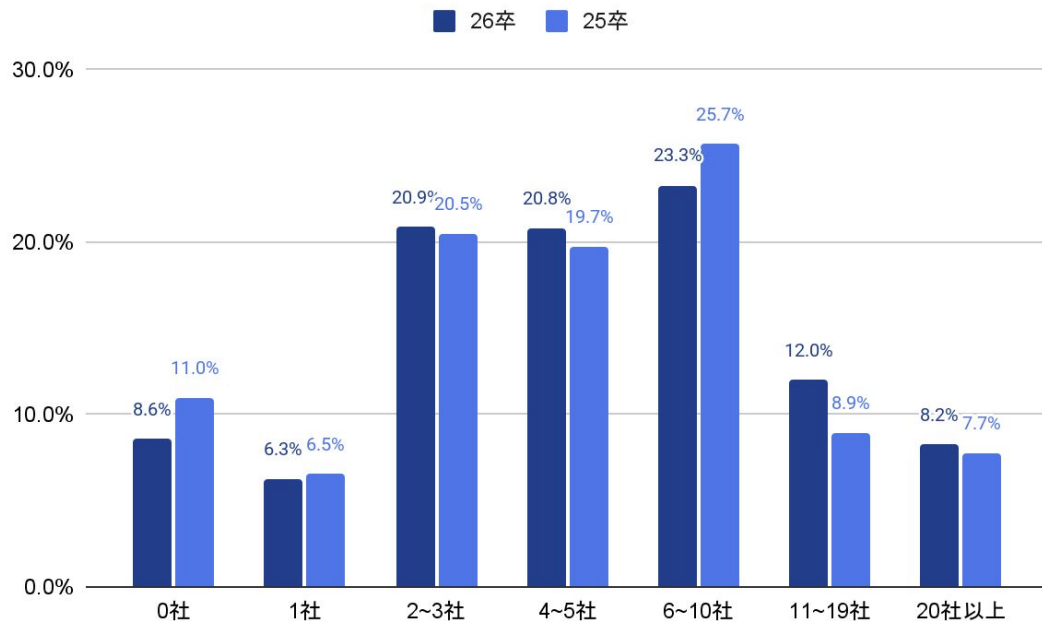
専攻別でもボリュームゾーンは5～10社。

就活における全期間で、可否問わずインターンシップ（1dayや説明会も含む）に応募した社数を教えてください。（単一回答）



91.4%の学生が夏のインターンシップに応募。 応募社数は昨年と変わらず 5社（中央値）。

修士1年の4～9月に応募したサマーインターンシップ（1dayや説明会も含む）の社数を教えてください。（単一回答）

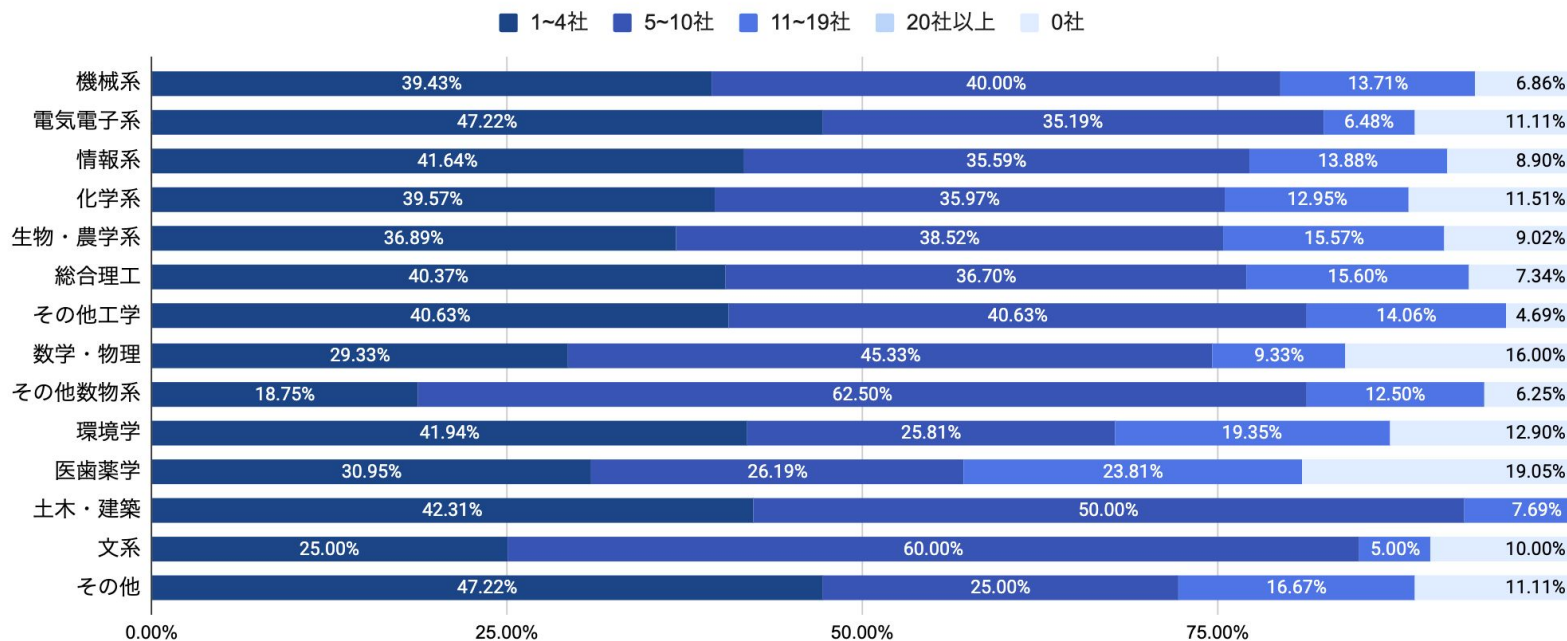


参照：2024年7月 25卒理学院生1,979名 就活動向調査（n= 1,788）

参照：2025年7月 26卒理学院生1,519名 就活動向調査（n= 1,519）

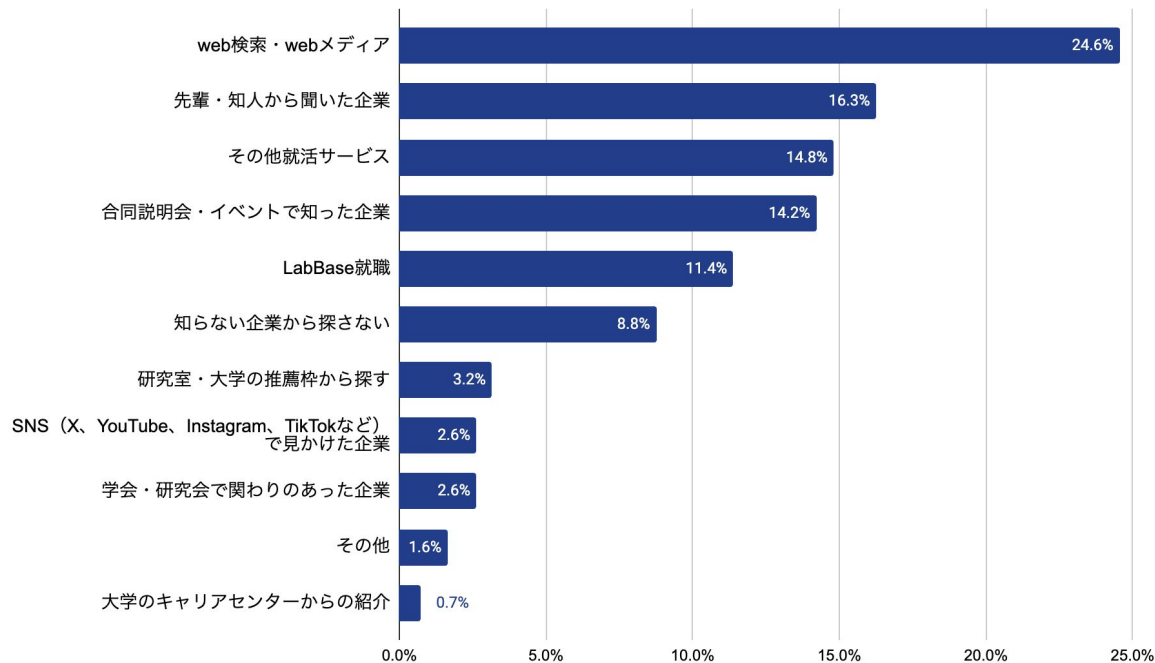
専攻別に見ても、ほとんどの学生が1社以上夏インターンに参加している

修士1年の4～9月に応募したサマーインターンシップ（1dayや説明会も含む）の社数を教えてください。（単一回答）



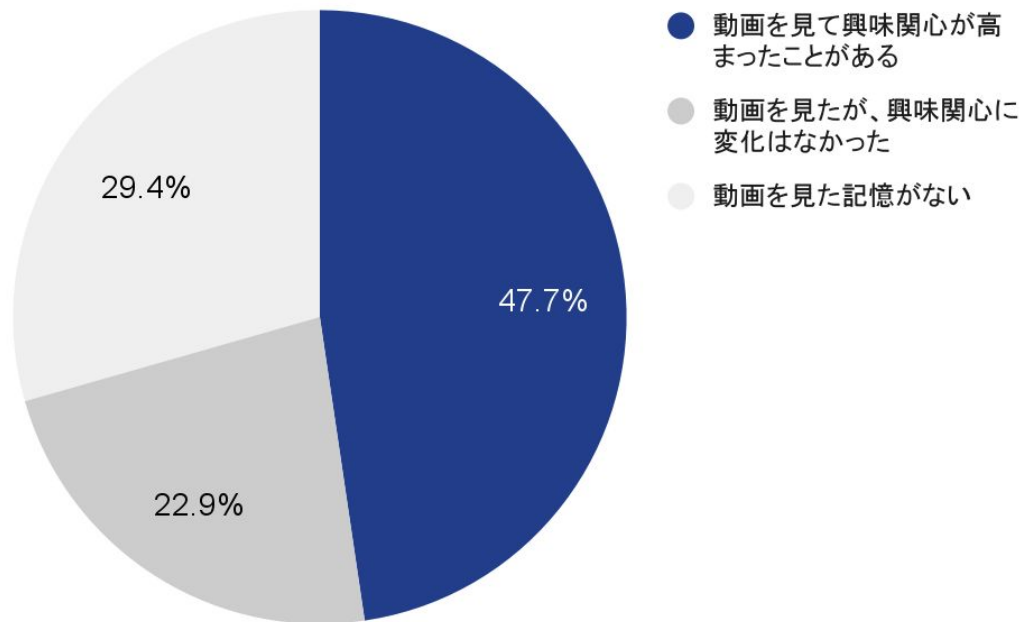
多種多様な方法で情報収集をおこない、慎重に応募を検討している

まだ知らない企業からエントリー/応募の候補を検討する時、どのように探すことが最も多かったですか？（単一回答）



半数近くの学生が、動画コンテンツに影響を受けている

エントリー/応募を検討する企業を探す中で、募集情報や職種情報の動画のコンテンツを観て興味関心が高まった体験はありますか？（単一回答）



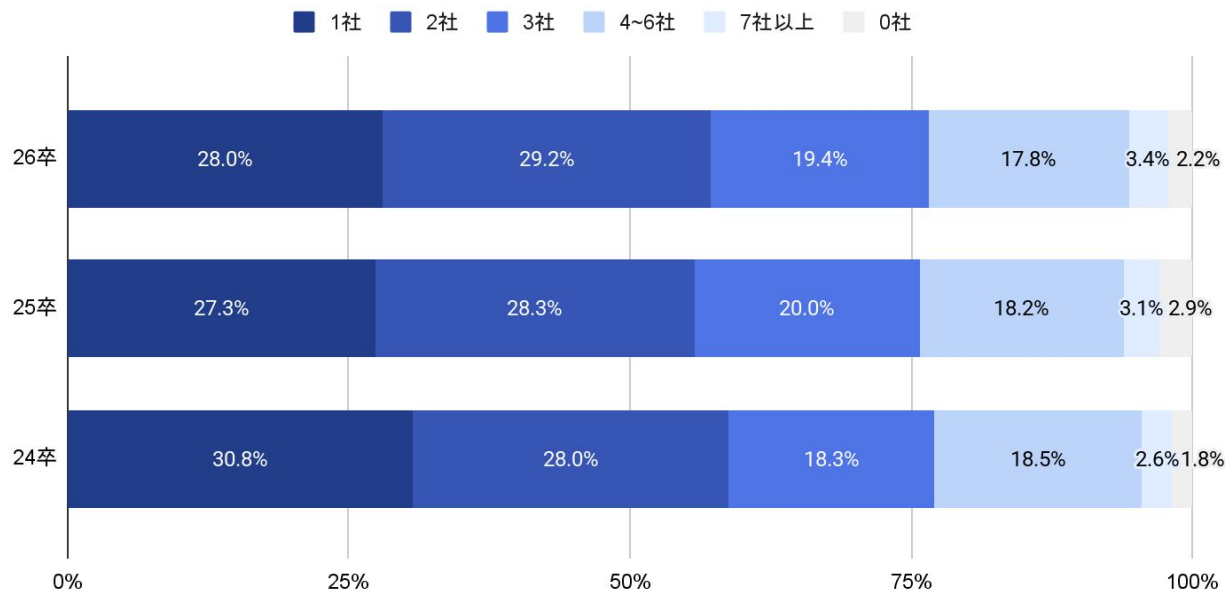
02.

内定状況と 入社先決定時期

- どれくらい内定を持っているのか？
- いつから内定をもらい出すのか？
- いつ入社先を決めているのか？

内定獲得数は、昨年と変わらず2社(中央値)。

何社から内定をもらいましたか。(承諾済み・辞退も含みます) (単一回答)



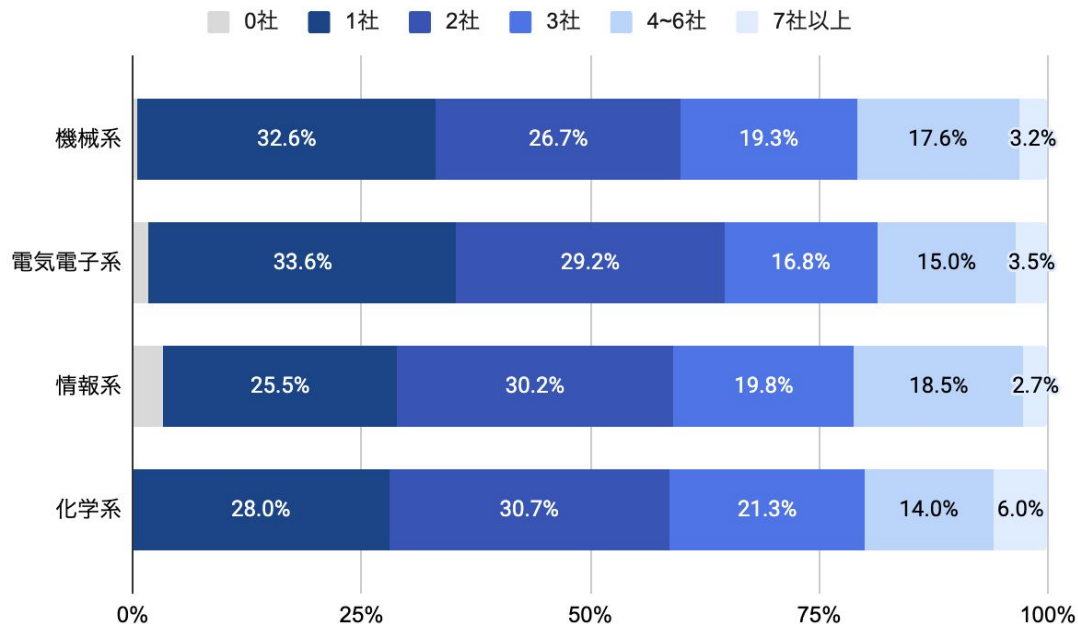
参照：2023年7月 24卒理系院生1,977名 就活動向調査 (n= 1,895)

参照：2024年7月 25卒理系院生1,979名 就活動向調査 (n= 1,788)

参照：2025年7月 26卒理系院生1,519名 就活動向調査 (n= 1,519)

専攻別に見ても、ボリュームゾーンは1~2社。

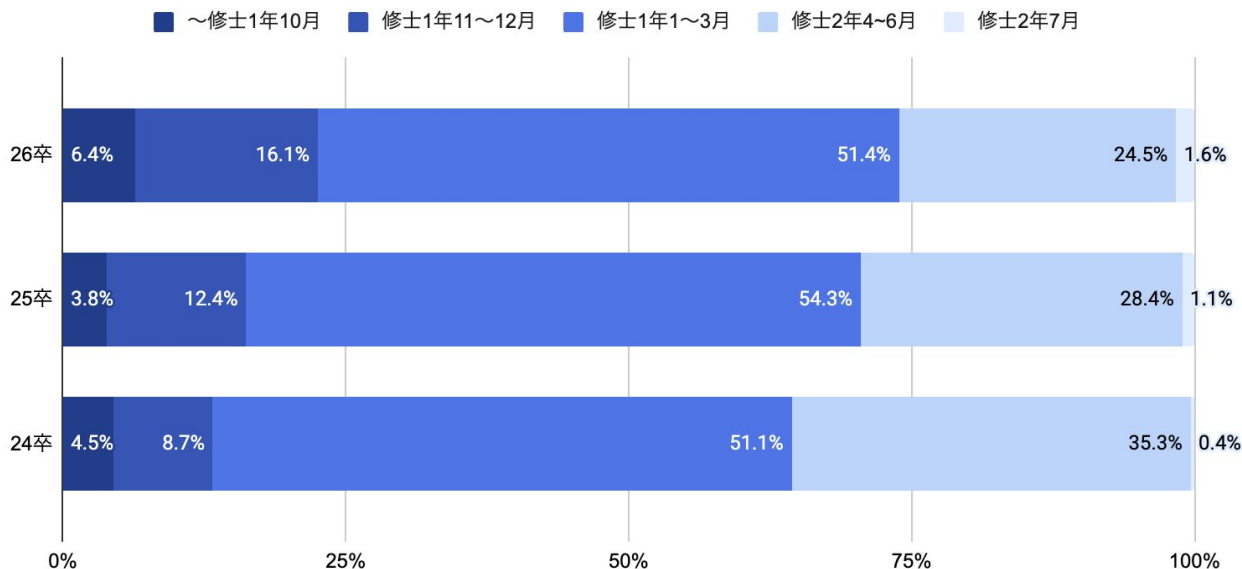
何社から内定をもらいましたか。（承諾済み・辞退も含みます）（単一回答）



内定獲得時期の早期化もさらに進む

約74%の学生が3月までに内定獲得しており、昨年対比3.4pt増加。
修士1年12月までに獲得した割合が昨年対比6.3ptも増加。

いつ内定をもらいましたか？内定が複数で時期が異なる場合は複数ご選択ください。（複数選択可）



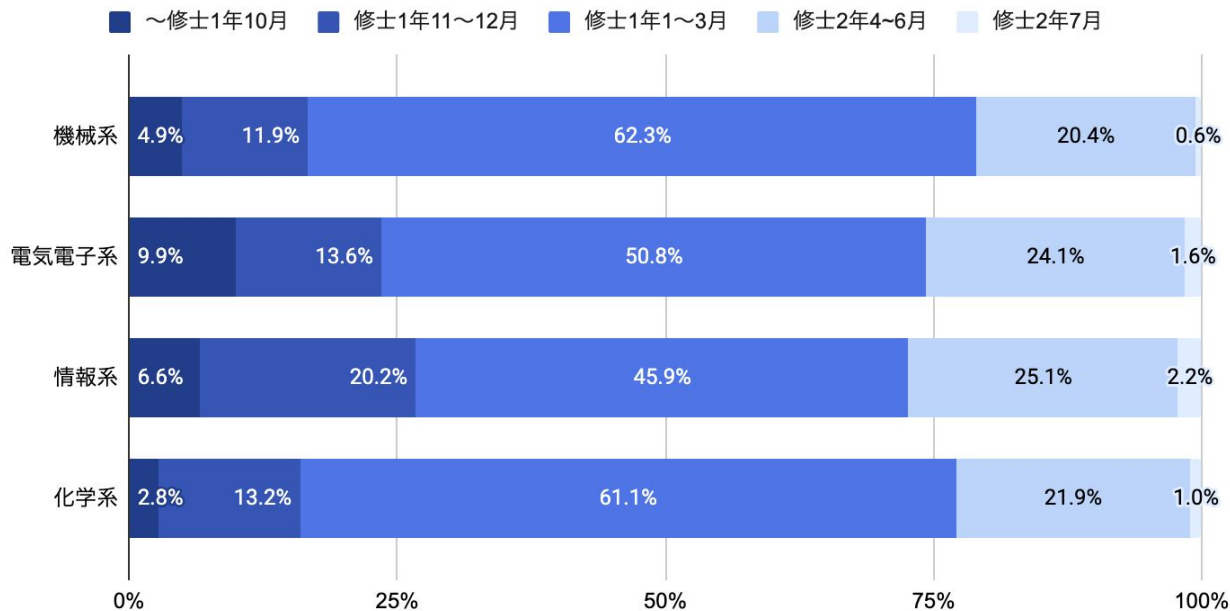
参照：2023年7月 24卒理学院生1,977名 就活動向調査（n= 1,895）

参照：2024年7月 25卒理学院生1,979名 就活動向調査（n= 1,788）

参照：2025年7月 26卒理学院生1,519名 就活動向調査（n= 1,519）

特に情報系院生は内定獲得時期が早い傾向に。

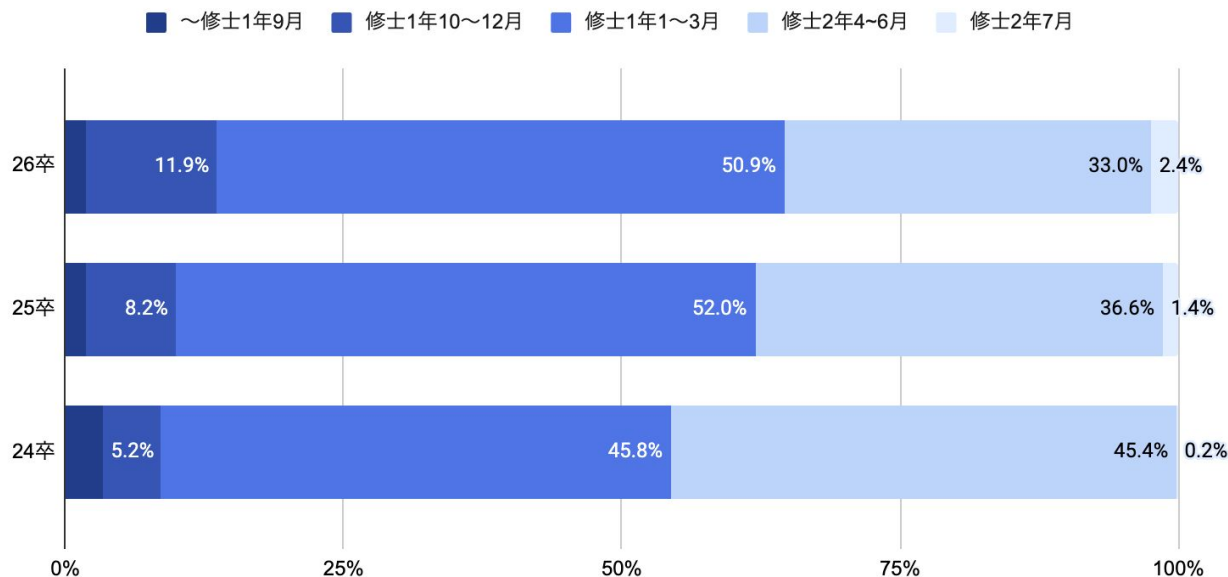
いつ内定をもらいましたか？内定が複数で時期が異なる場合は複数ご選択ください。（複数選択可）



入社先企業からの内定獲得も、前倒しの傾向は加速。

約64%は3月までに内定を獲得。昨年対比2.8pt増加。

入社予定の企業からの内定は、いつ頃もらいましたか？（単一回答）



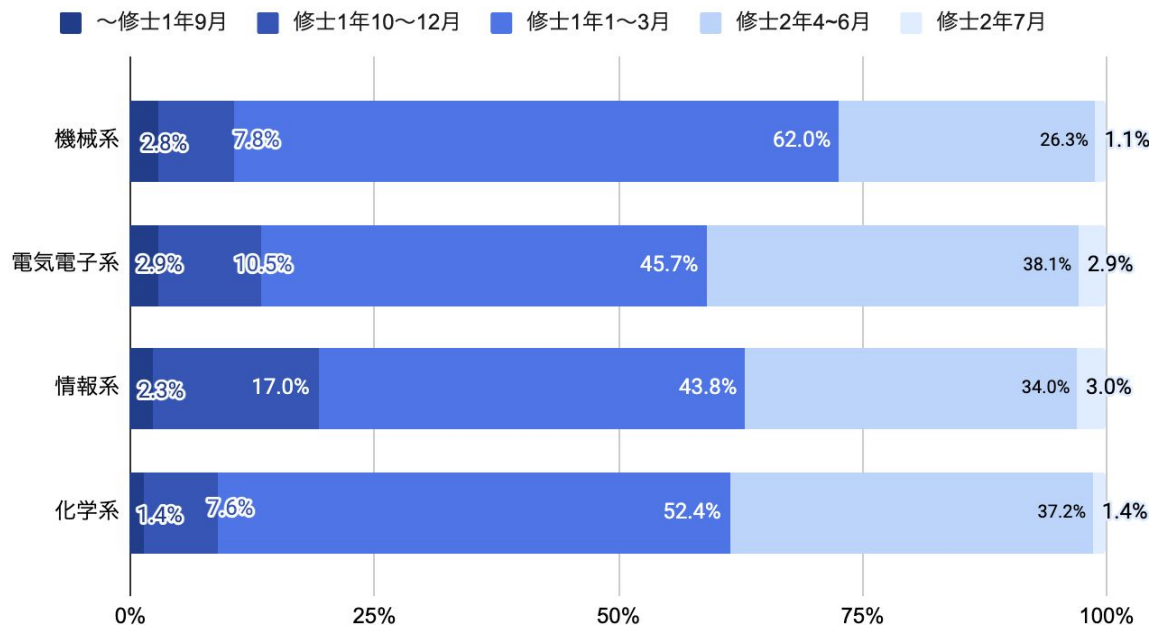
参照：2023年7月 24卒理学院生1,977名 就活動向調査（n= 1,895）

参照：2024年7月 25卒理学院生1,979名 就活動向調査（n= 1,788）

参照：2025年7月 26卒理学院生1,519名 就活動向調査（n= 1,519）

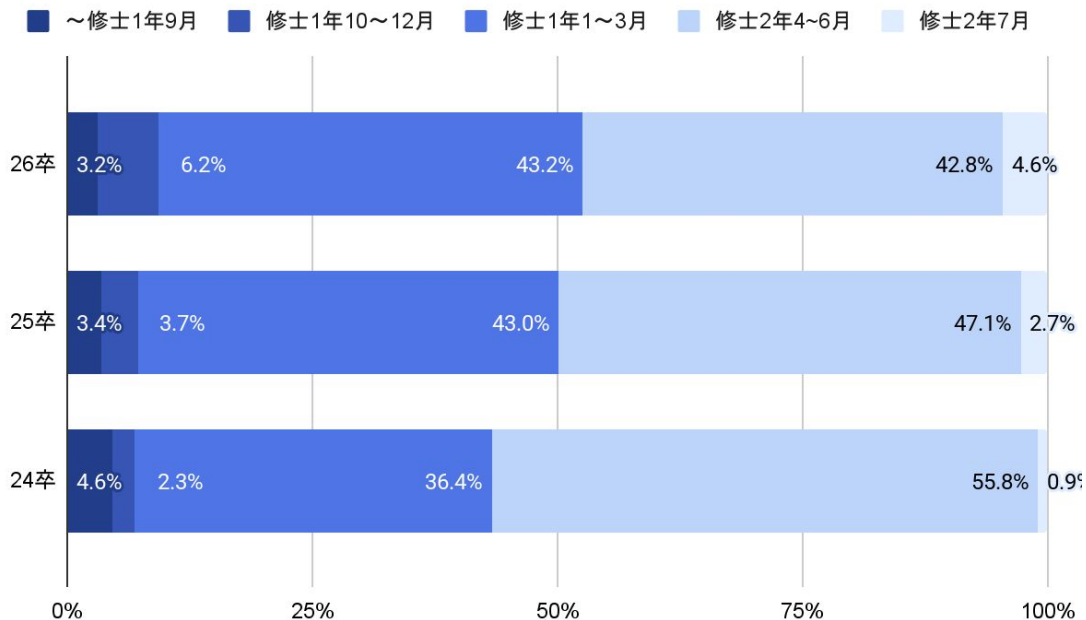
修士1年3月までに内定を獲得する割合は、機械系院生が最も高く、72.6%を占めている。
12月までに獲得する割合が最も高いのは情報系院生。

入社予定の企業からの内定は、いつ頃もらいましたか？（単一回答）



52.6%は、3月までに入社先を決めている。 学生の意思決定も早期化がやや進んでいる。

入社予定の内定先への内定承諾を決めたのはいつでしたか？（単一回答）



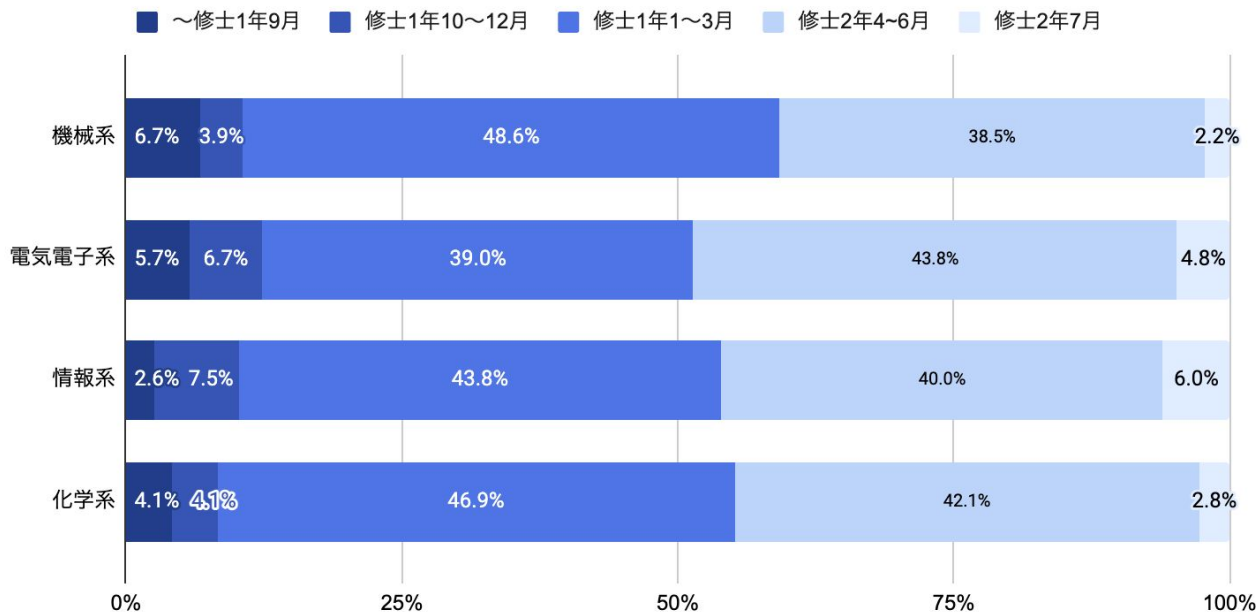
参照：2023年7月 24卒理系院生1,977名 就活動向調査（n= 1,895）

参照：2024年7月 25卒理系院生1,979名 就活動向調査（n= 1,788）

参照：2025年7月 26卒理系院生1,519名 就活動向調査（n= 1,519）

どの専攻の学生も、半数以上が、修士1年3月までに入社先を決める。
機械系の院生は、修士1年3月までに入社先を決める傾向がやや強い。

入社予定の内定先への内定承諾を決めたのはいつでしたか？（単一回答）



03.

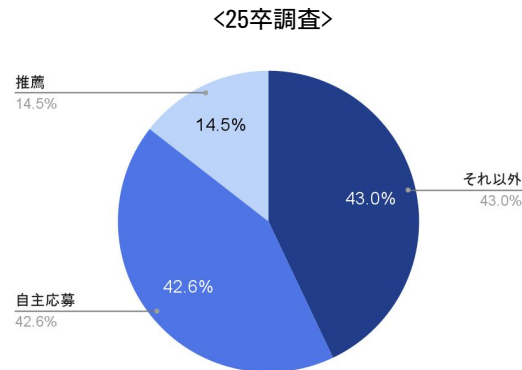
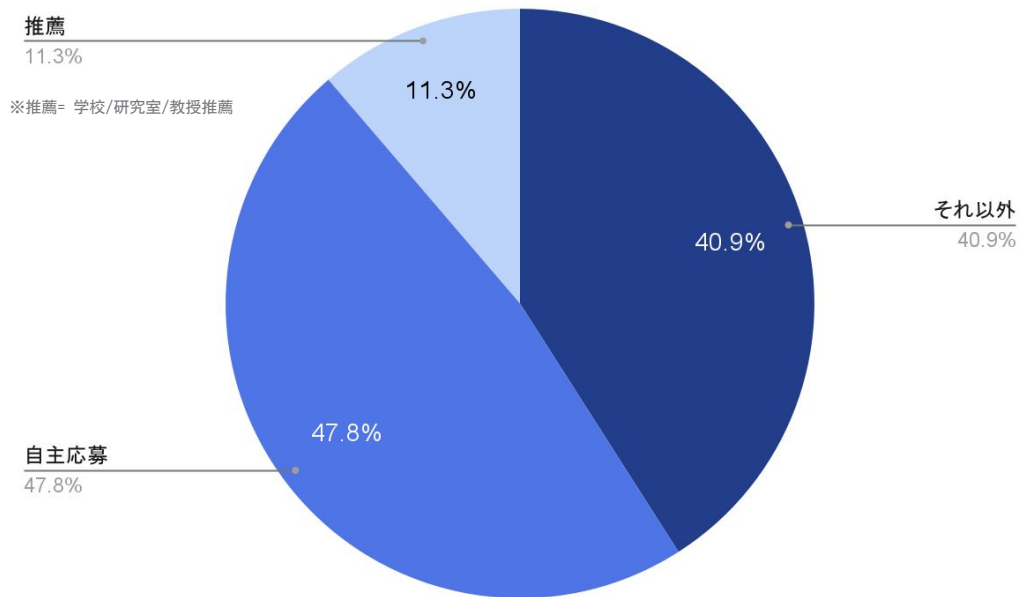
入社予定企業 との接触

- 入社予定企業と接触したチャネルは？
- 入社予定企業に興味をもったきっかけは？
- 入社予定企業のインターンへの参加は？
- 入社予定企業の現場社員との関わりは？

引き続き自分で選ぶ就職活動の傾向は加速

推薦経由が3.4pt減。自主応募は5.2pt増加。

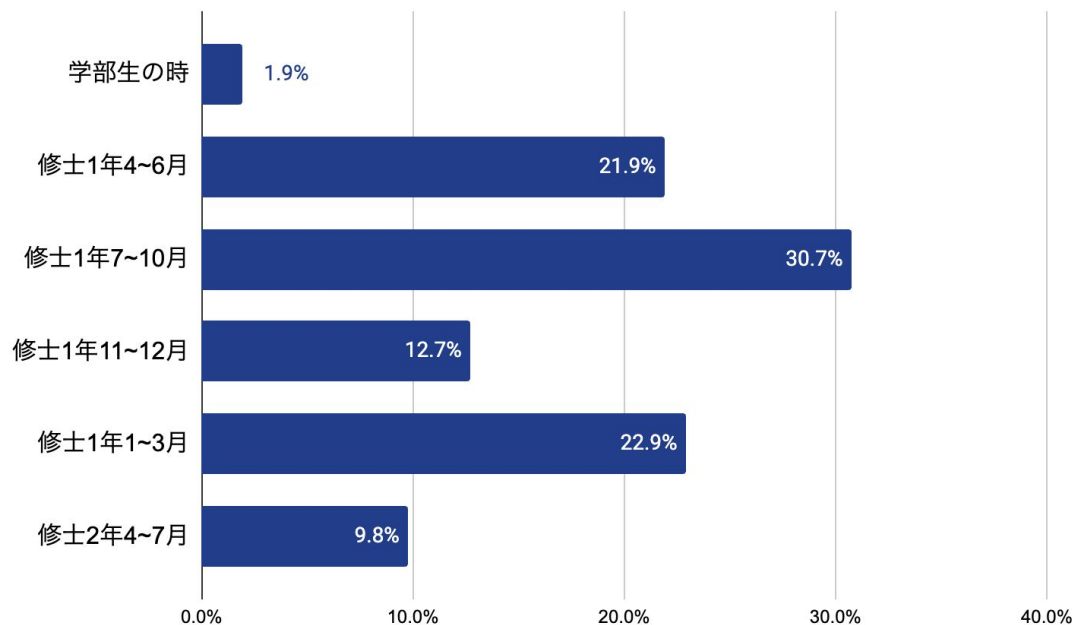
入社予定の企業との接点に該当するものをお選びください。（単一回答）



54. 5%の学生が、修士1年10月までに初回の面談・面接を終えている

入社予定の企業と本選考・インターン・説明会等は問わず、初めて面談か面接のあった時期をお選びください。（単一回答）

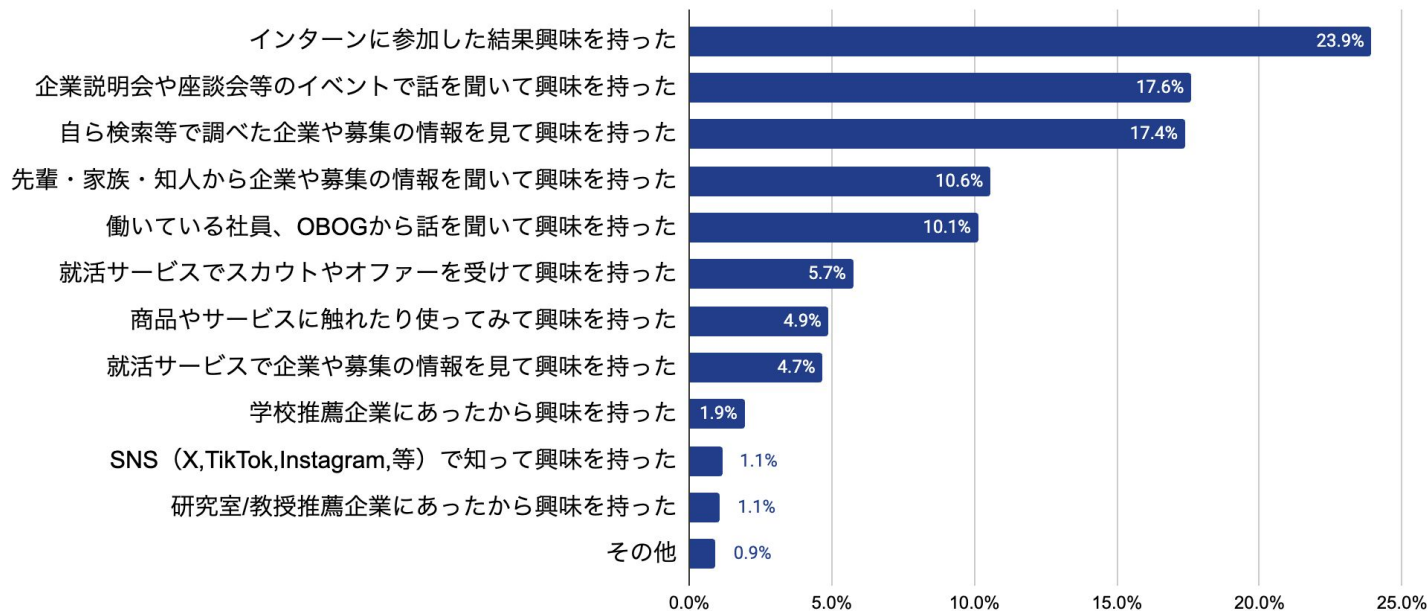
※対面・オンラインどちらも含みます



就活前に認知されていなくてもチャンスは大いにある

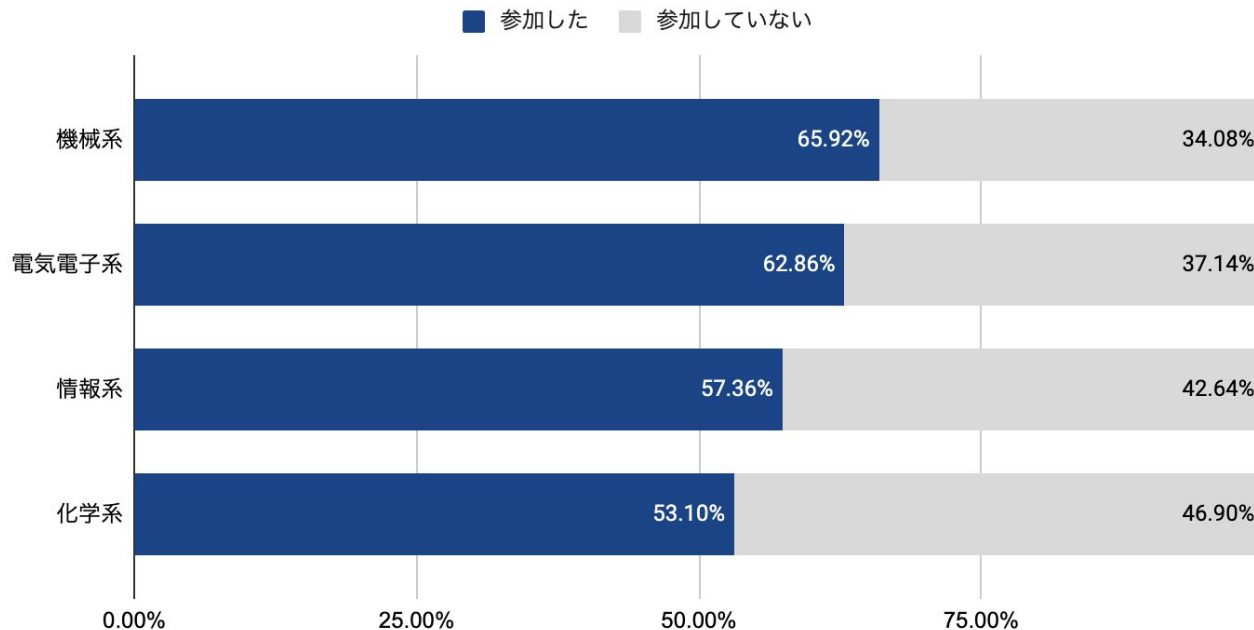
70%以上の割合で就職活動に関連した何かしらのきっかけで興味を持つ

入社予定の企業に、「もっと詳しく知りたい」「応募を検討したい」と具体的に興味を持つきっかけとなったものを教えてください。（単一回答）



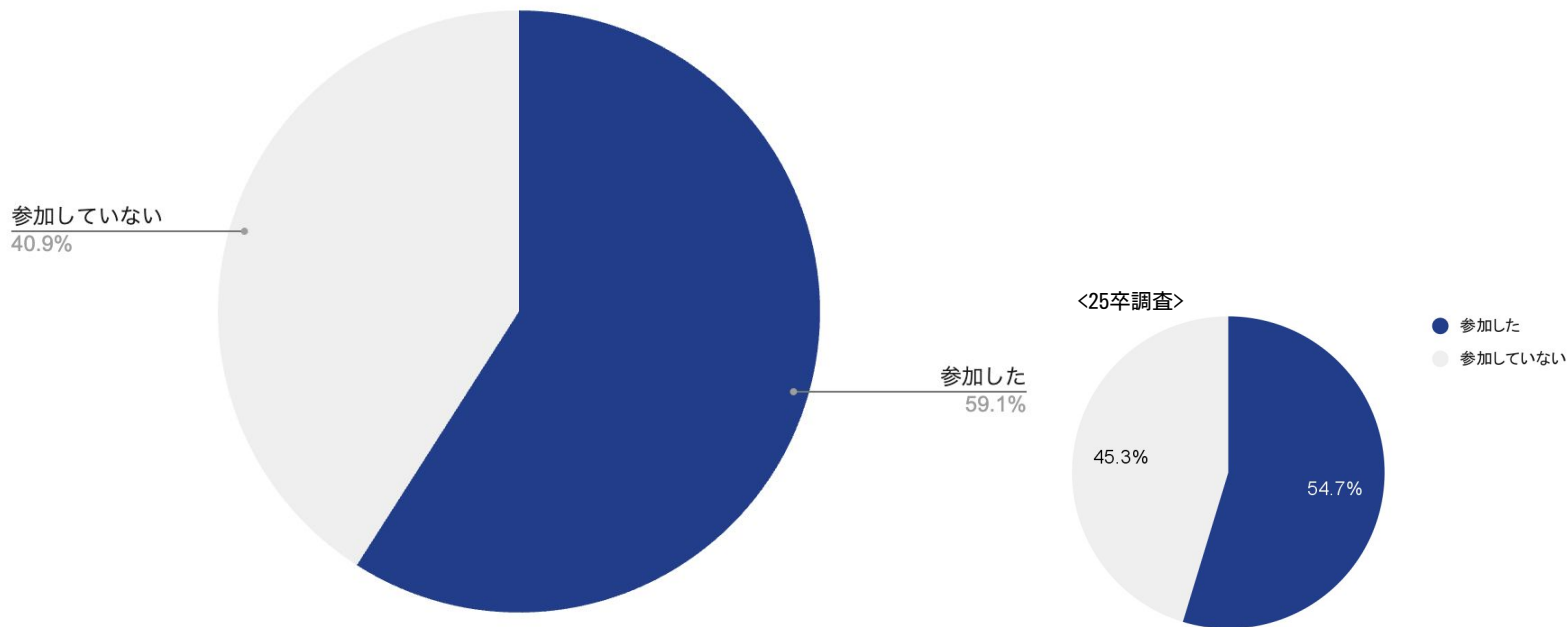
入社先のインターン参加率は特に機械・電気電子系が高い。

入社予定の内定先のインターンの参加についてお選びください。



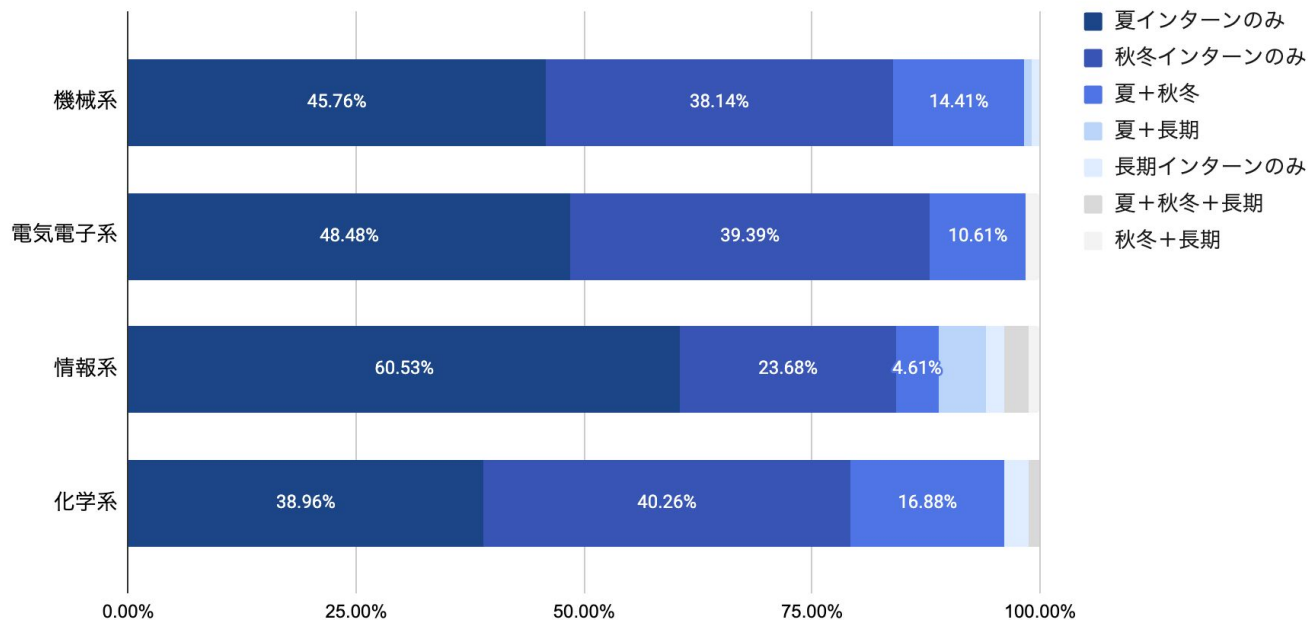
入社先のインターン参加率は約60%。昨年より4.4pt上昇。

入社予定の内定先のインターンの参加についてお選びください。



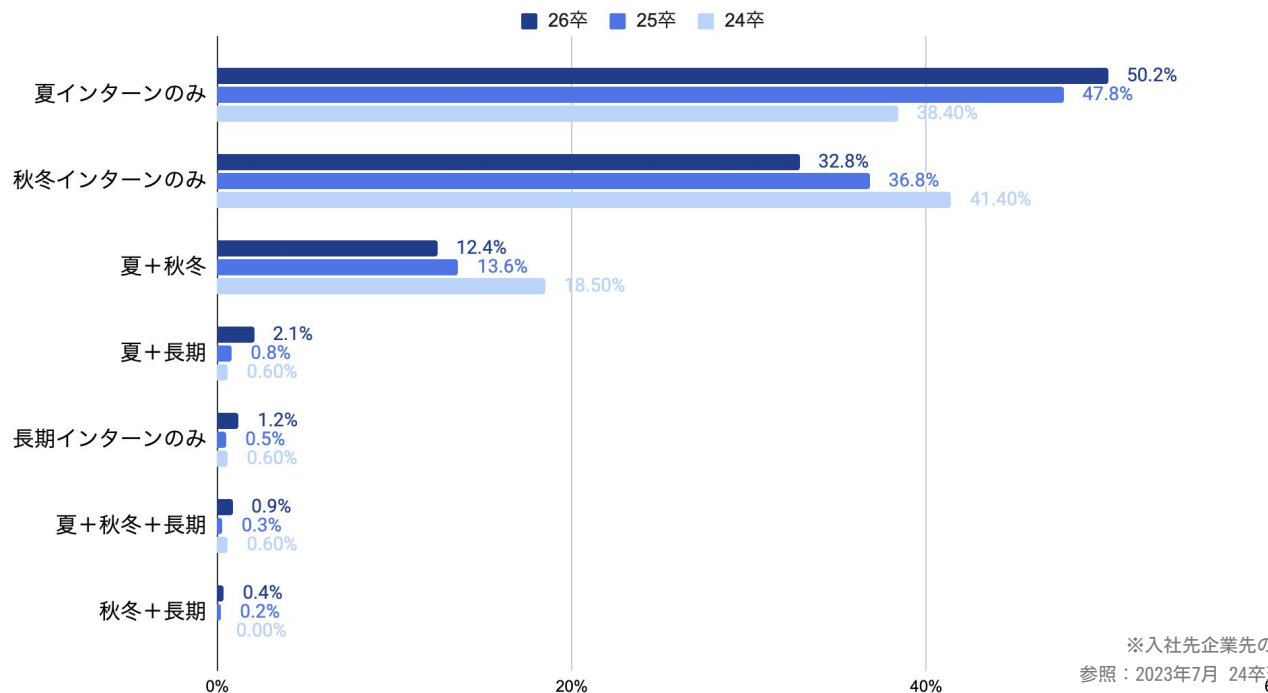
機械/電気電子/情報系は、夏インターンシップのみの参加率が最も高い。 化学系は夏のみ、秋冬のみの割合である。

入社予定の内定先のインターンの参加についてお選びください（選択式グリッド回答）



「夏インターンのみ」と「長期インターン」の参加が増加。

入社予定の内定先のインターンの参加についてお選びください（選択式グリッド回答）



※入社先企業先のインターンへ参加した学生の回答のみ抜粋

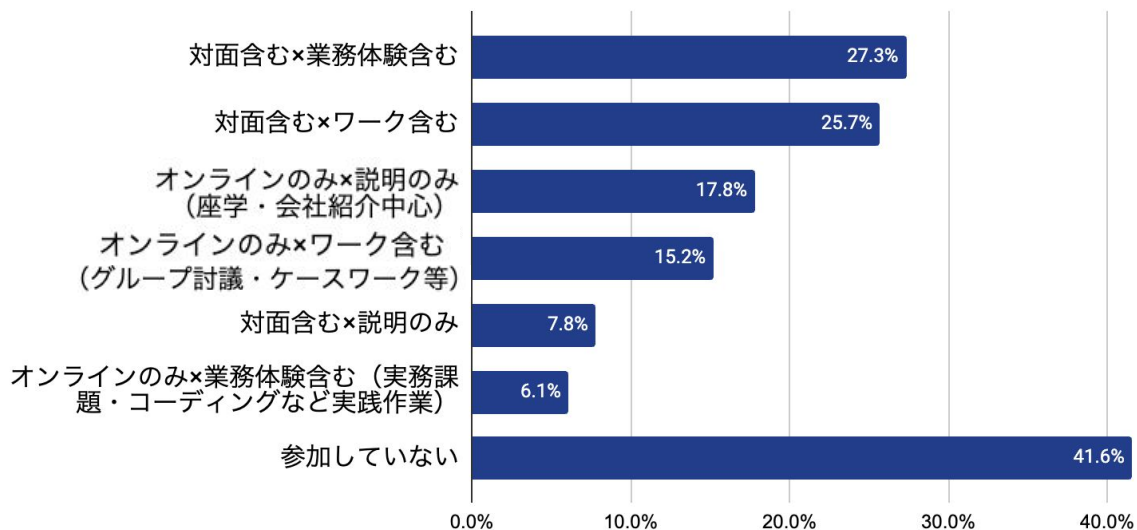
参照：2023年7月 24卒理系院生1,977名 就活動向調査（n= 1,895）

参照：2024年7月 25卒理系院生1,979名 就活動向調査（n= 1,788）

参照：2025年7月 26卒理系院生1,519名 就活動向調査（n= 1,519）

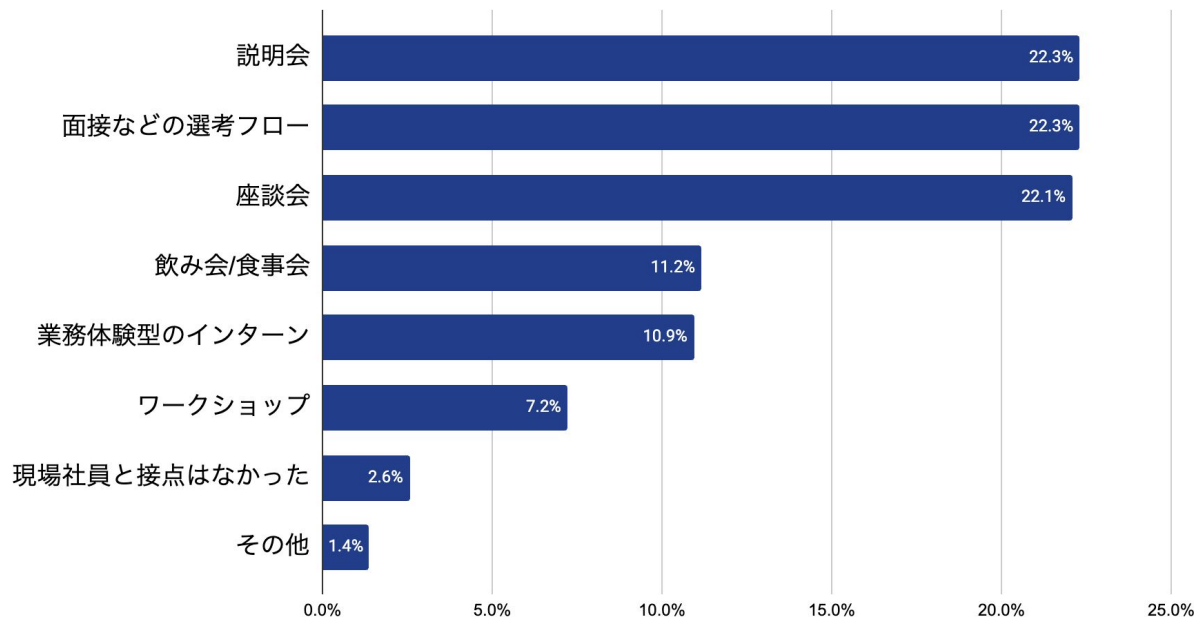
「対面 かつ 業務体験」を含むインターンシップへの参加率が最も高い

入社予定の内定先のインターンの形態について参加したものをすべてお選びください。（複数選択可）



ほとんどの学生が、どこかのタイミングで現場社員と接している 説明会・座談会・選考フローでの関わりが多い

入社予定の企業の現場社員と接点のあった機会をすべてお選びください（複数選択可）



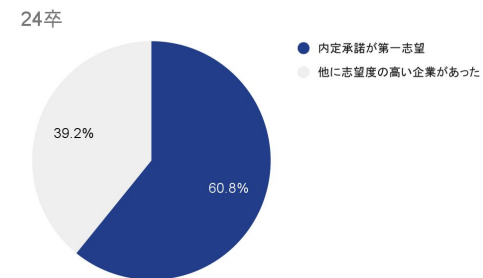
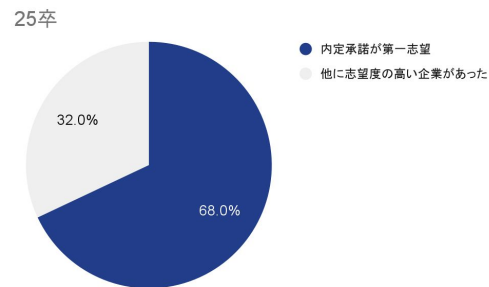
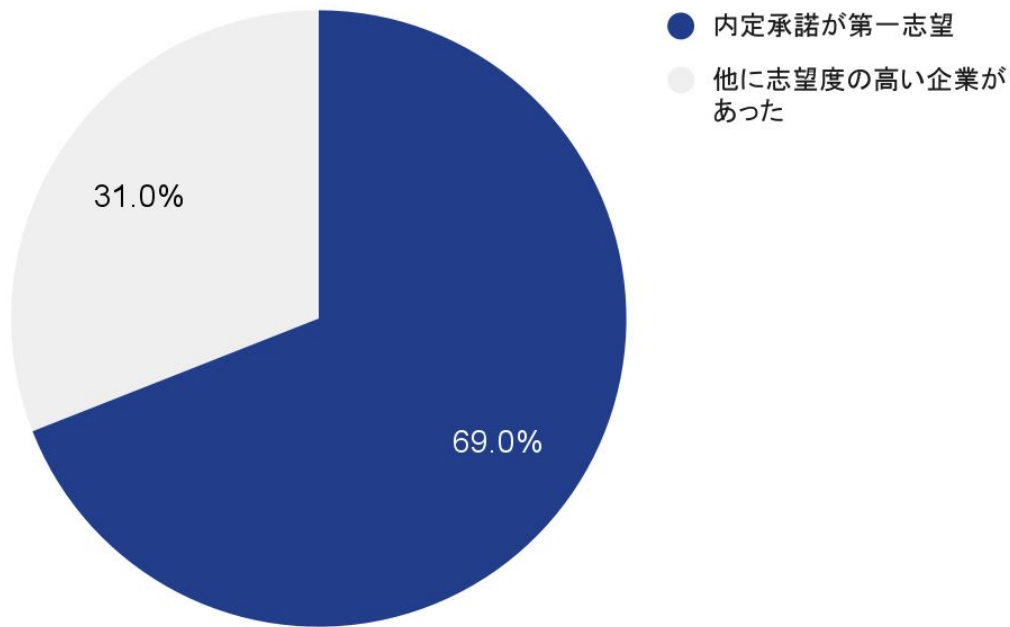
04.

内定承諾に 影響する要素

- 第一志望の企業へ入社しているのか？
- 承諾を決定する上で重要な要素は？
- 職種・勤務地の確約と内定承諾

昨年同様、第一志望への内定承諾傾向が高い

入社予定の内定先よりも志望度の高い企業はありましたか？（単一回答）



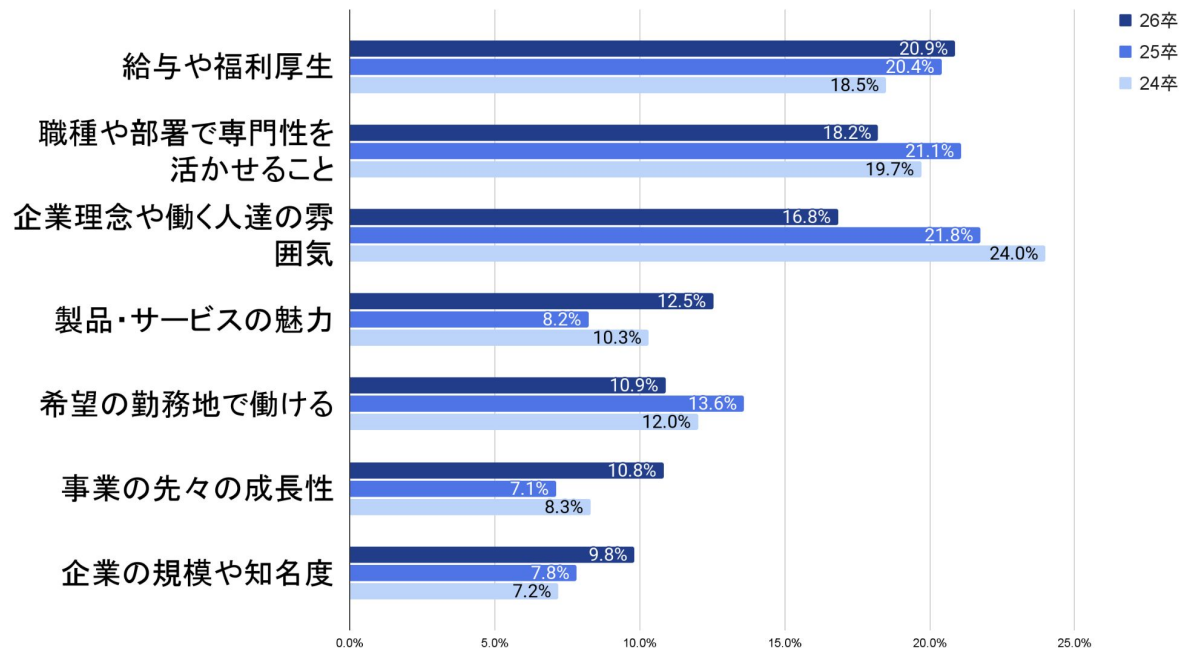
参照：2023年7月 24卒理系院生1,977名 就活動向調査（n= 1,895）

参照：2024年7月 25卒理系院生1,979名 就活動向調査（n= 1,788）

参照：2025年7月 26卒理系院生1,519名 就活動向調査（n= 1,519）

「どんな環境・待遇」で「どんな人」と「どんな仕事」ができるかが重要 昨年に比べ、「製品・サービスの魅力」「事業の成長性」「企業の規模・知名度」の重要度がアップ

内定承諾をする上で重要だったものを、各内容に重要度を第1位～第7位から選択する形でお選びください。



※第1位の回答のみ抜粋

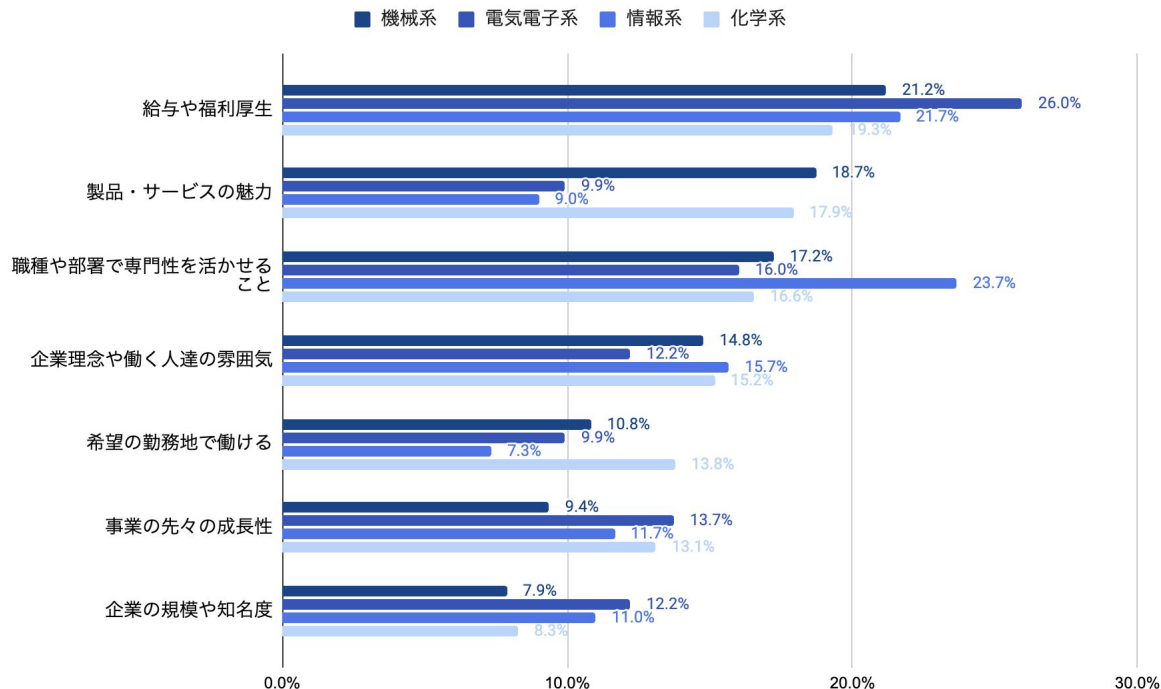
参照：2023年7月 24卒理系院生1,977名 就活動向調査 (n= 1,895)

参照：2024年7月 25卒理系院生1,979名 就活動向調査 (n= 1,788)

参照：2025年7月 26卒理系院生1,519名 就活動向調査 (n= 1,519)

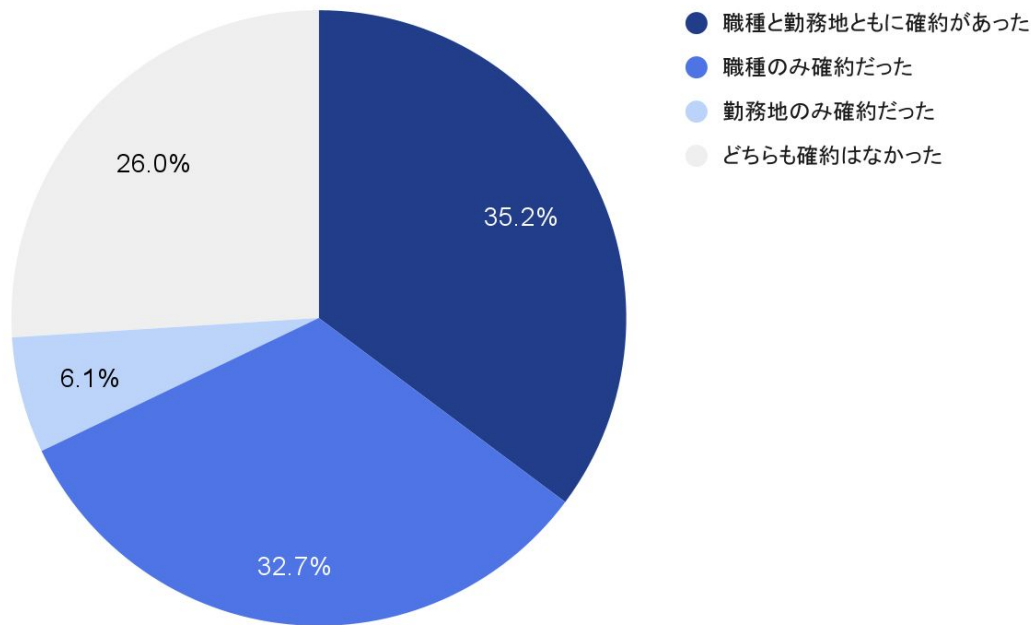
機械系・化学系院生は「製品・サービスの魅力」 電気電子院生は「事業の成長性」も重視する傾向に。

内定承諾をする上で重要だったものを、各内容に重要度を第1位～第7位から選択する形でお選びください。



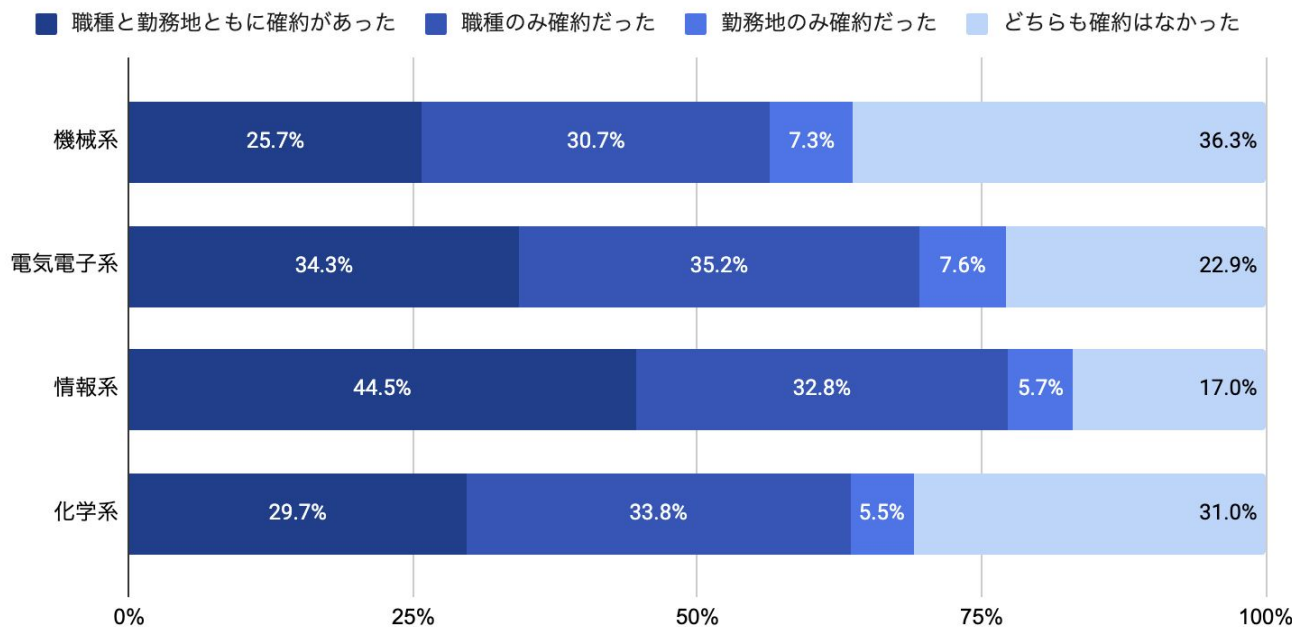
74%が、職種または勤務地、もしくはその両方を確約された状態で内定を獲得

入社予定の企業は内定時に職種・勤務地の確約がありましたか？（単一回答）
※技術系総合職への配属予定については、職種の確約はなかったとご選択ください



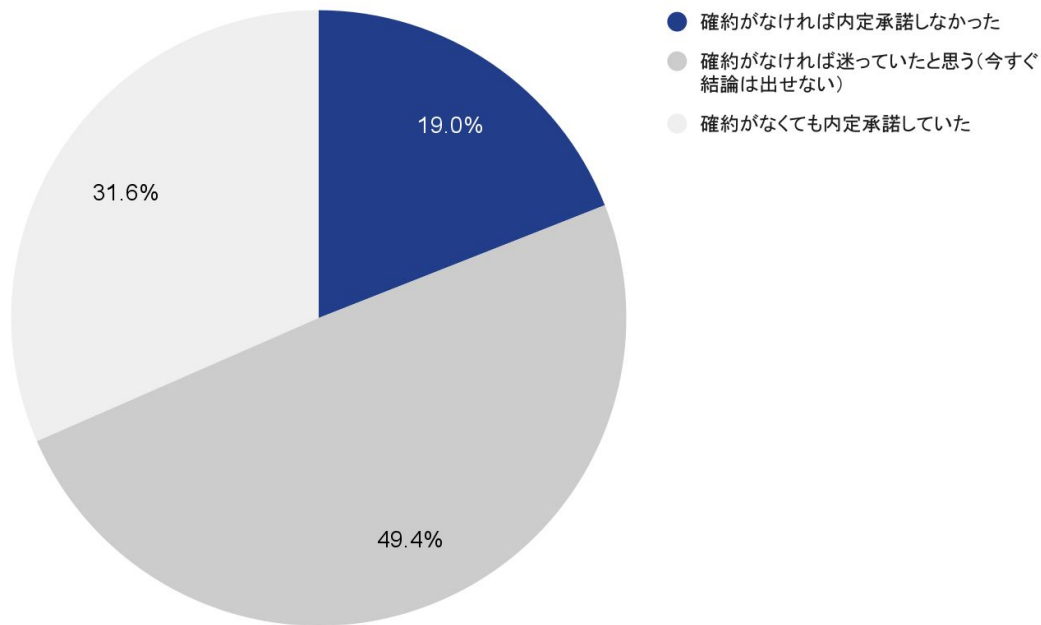
特に電気電子・情報系は、勤務地もしくはその両方を確約された状態で内定を獲得する割合が高い。

入社予定の企業は内定時に職種・勤務地の確約がありましたか？（単一回答）
※技術系総合職への配属予定については、職種の確約はなかったとご選択ください



職種・勤務地の確約がない場合、68.4%は内定承諾に悩む傾向に。

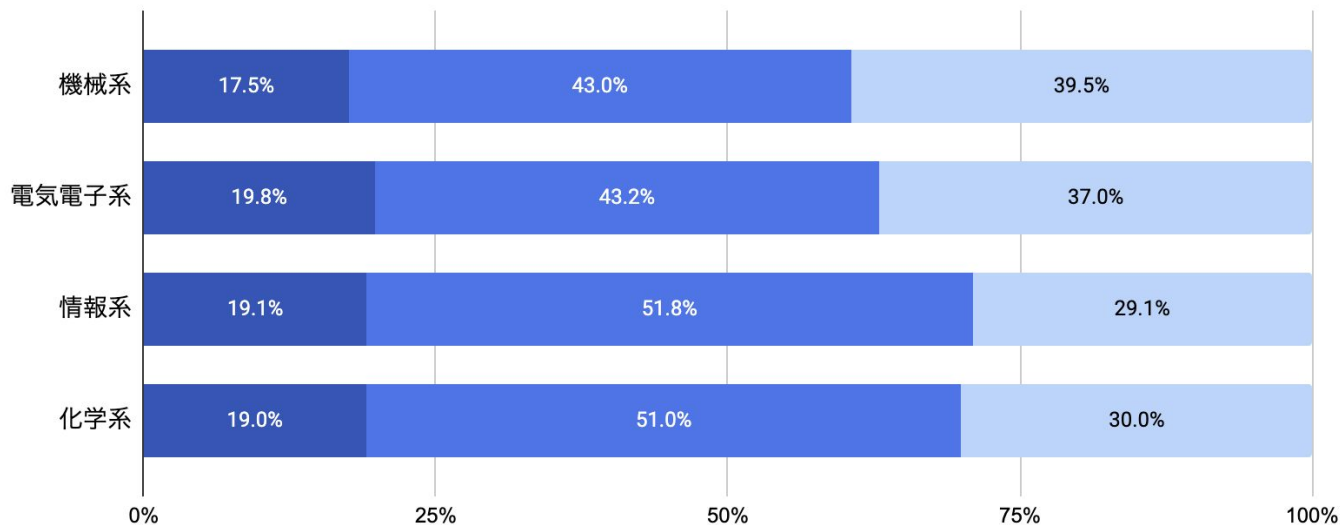
職種・勤務地の両方、もしくはいずれかの確約が仮になかった場合、内定承諾先として選んでいましたか？（単一回答）



職種・勤務地の確約がない場合 特に情報・化学系は内定承諾を悩む割合が高い。

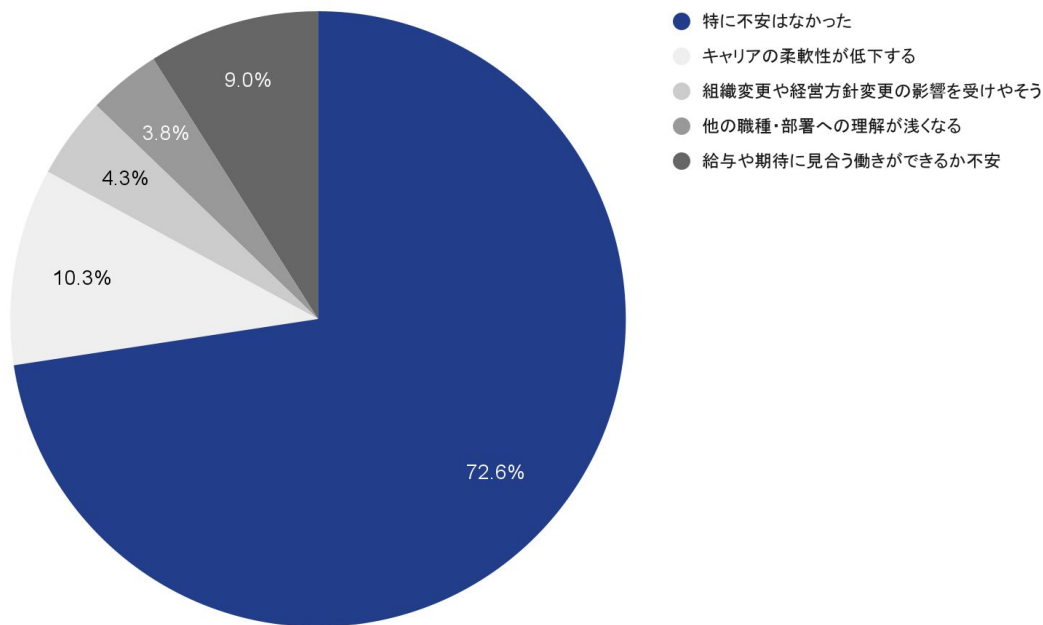
職種・勤務地の両方、もしくはいずれかの確約が仮になかった場合、内定承諾先として選んでいましたか？（単一回答）

- 確約がなければ内定承諾しなかった
- 確約がなければ迷っていたと思う（今すぐ結論は出せない）
- 確約がなくても内定承諾していた



72.6%は、職種・勤務地確約に対する不安は感じていない

職種・勤務地の両方、もしくはいずれかの確約によって感じる不安はありましたか？（複数選択可）





採用のあらゆる課題を横断的にご支援します

新卒採用

LabBase 就職

理系専門職の新卒採用に特化
自社にマッチするターゲット学生に
能動的なアプローチが可能

LabBase キャリアイベント

採用ニーズに合わせて
多様なオンラインイベントをご提案

留学生採用

LabBase Asia

奈良先端
科学技術大学院大学 の
優秀な情報・電子、材料、
バイオの留学生を
個別にご紹介



中途採用

LabBase 転職

優秀な中途の
研究者・技術者の採用に
LabBase就職の卒業生も
利用する技術特化転職
エージェント



AIエージェント

EUREKA

AI INTERVIEW

候補者の専門性や人間性を
AIが引き出す
データにより
最高の出会いを加速する
AI面接



理系専門職の採用に
効率的・効果的なアプローチができる

LabBase 就職



Academia

学部生
修士 / 博士

企業

Enterprise

企業側・学生側の双方から能動的にアプローチすることが可能



理系専門職の採用に、効率的・効果的なアプローチができる

特徴

1

国内理系大学院生の

約**50%**が
登録^{※1}

特徴

2

研究内容/
スキルがわかる
**豊富な
プロフィール**

特徴

3

**効果的・効率的な
アプローチ**
が可能な
機能開発

国内理系大学院生の約50%が登録

国内理系大学院生の約50%が登録 専門性の高い多様な人材が在籍

27卒理系学生

約 **2.6**^{※1} 万名

国内理系院生の

約 **50**^{※2} %
が登録

年次登録数（25卒実績と27卒実績）

累計登録数

27,000

26,000

25,000

24,000

23,000

登録増加中

25卒

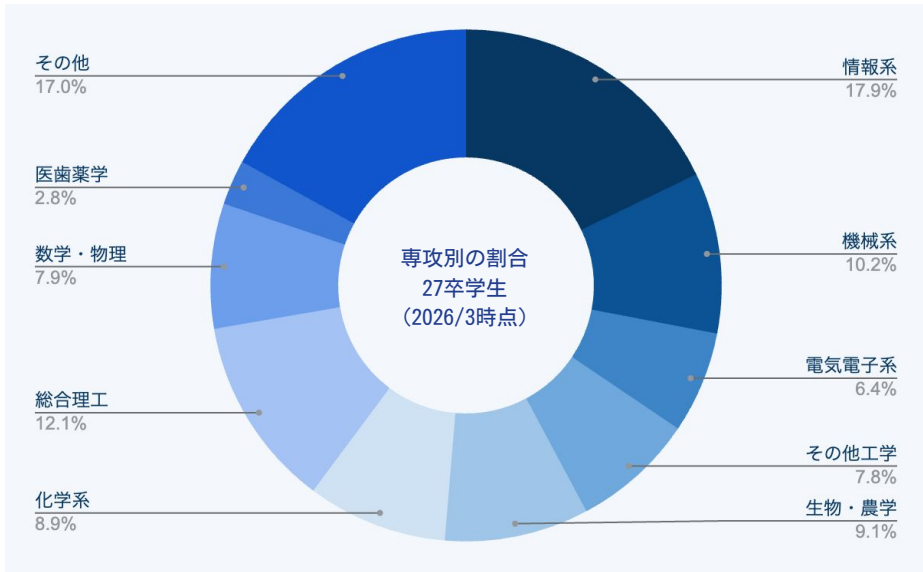
実績※2024年3月時点

27卒

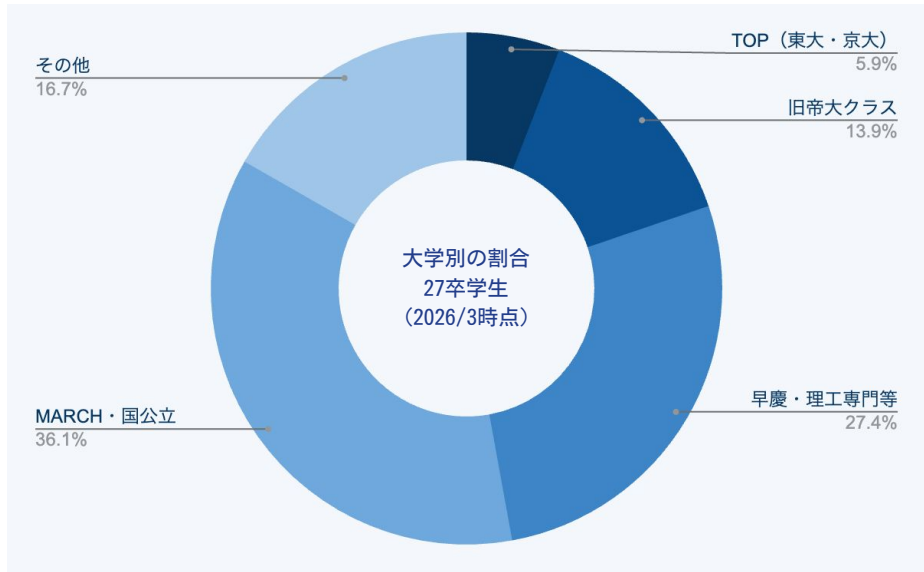
実績※2026年3月時点

機電・情報系を中心に、地方国公立以上の理系学生が登録

機電・情報系を中心に、幅広い専攻の学生が登録



MARCH・国公立以上の学生が80%超え



研究の力を、 人類の力に。

Empowering Research, Empowering Humanity

研究エンパワープラットフォーム

LabBase

株式会社LabBase

所在地：東京都港区新橋六丁目19番13号 エンスイテ御成門7階

設立：2016年9月23日

従業員数：129人（2024年9月時点）

資本金：100,000,000円

代表



株式会社LabBase 代表取締役CEO

加茂 倫明

1994年京都生まれ。大学勤務者の両親を持ち、幼少期より数学者を志す。東京大学理科二類入学後、研究領域の課題を目の当たりにし、国内外のベンチャー数社での長期インターンを経験後、東京大学工学部在学中の2016年に株式会社LabBase（旧POL）を創業。科学と社会の発展に世界で最も貢献する会社を目指し、研究エンパワープラットフォームを創造中。

事業内容

理系学生及び中途技術者の採用支援

 **LabBase** 就職

 **LabBase** 転職

EUREKA
AI INTERVIEW

受賞歴／掲載実績

- NHKニュース7ノーベル賞特集にて紹介
- テレビ東京 WBSにて紹介
- 東洋経済「すごいベンチャー100」選出
- 「TechCrunch Tokyo 2018」受賞

お問い合わせはこちら

ご利用方法や導入事例はWEBサイトでもご確認いただけます

お電話やWEBサイト上のお問い合わせ窓口より、お気軽にお問い合わせください。

▼ 資料ダウンロード



資料ダウンロードはこちら

<https://business.labbase.jp/downloads/>

LabBase就職をはじめて知っていただく方に向けて、
わかりやすいサービス資料や理系学生に詳しくなれる
お役立ち資料をご用意しています。

▼ お問い合わせ



お問い合わせはこちら

<https://business.labbase.jp/contact/>

03-6684-1539 (10:00～19:00)

お電話やWEBサイト上のお問い合わせ窓口より、
お気軽にお問い合わせください。